山梨県韮崎市発掘調査報告書

坂井遺跡（村ノ前第２地点）
坂井南遺跡（第３地点）

下水道敷設に伴う緊急発掘調査報告書

２００６

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

坂井遺跡（村ノ前第２地点）
坂井南遺跡（第３地点）

下水道敷設に伴う緊急発掘調査報告書

２００６

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序　文

韮崎市は武田氏発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡や関連のある武田八幡宮、願成寺、白山城跡や能見城跡があり、また治水遺構として勅使川旧堤防跡（将棋頭）など挙げ始めれば枚挙に暇のないほどであります。

このような中世以降の史跡もさることながら、中世以前の遺跡も数多く残っております。七里岩台地に所在する坂井遺跡は、山梨県の考古学黎明期に故志村滝蔵氏によって調査され、博物館第一号までも兼ね備えております。自分の住む地の先人達がどのような歴史を歩んできたかを検討し、今を生きる者へその重要性を訴え実践した場ともいえます。また、近接する弥生時代から古墳時代の集落跡である坂井南遺跡は1980年代に調査され、当時の居住域と墓域の関係や他地域との関係を紐解く資料を多く提供していることで県内外から注目を集めております。

両遺跡地内の今回調査した範囲は大変狭小ではありましたが、先人たちの残した営みの痕跡が数多く確認され、これまでの調査をさらに深化させる実績を挙げることができたことと思います。

発掘調査地点は下水道敷設と共に道路下に埋まり、二度と見ることはできませんが、調査記録の集大成である本書により坂井遺跡・坂井南遺跡での先人たちの営みが浮かび上がるとともに、また問題点なども浮き彫りになり、さらなる研究がおこなわれ、本遺跡の位置づけがなされることを願わずにはおれません。

遺跡の調査から本書の刊行が近隣の方々をはじめ多くの方々のご理解とご協力の中で遅滞なく進みましたことをこの場をかりて感謝申し上げます。

韮崎市遺跡調査会
事務局長　作地　敏久

例言

1　本書は下水道敷設に伴い実施した韮崎市藤井町南下条字坂井地内に所在する坂井遺跡及び坂井南遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査は平成16年度に、整理作業を平成17年度に実施した。

2　発掘調査ならびに整理作業は韮崎市と韮崎市遺跡調査会との間で契約を締結し、韮崎市遺跡調査会が事業を実施した。屋外調査の担当分担は次の通りである。
坂井遺跡：関間俊明
坂井南遺跡：桜木雅紀

3　本書の編集は関間俊明がおこなった。執筆は第5章はパリノ・サーヴェイ㈱が、その他を関間がおこなった。なお、第5章については報告された文章を若干編集している。

4　発掘調査、整理作業において次の分析・業務を委託した。
公共座標基準点測量等：㈱フジテクノ
炭化種実・土壌等分析：パリノ・サーヴェイ㈱

5　本書で使用した地図は国土交通省国土地理院発行の地形図（1：25,000・1：50,000）、地勢図（1：200,000）、韮崎市発行の都市計画図（1：2,500・1：5,000）、韮崎市所有の地籍図（1：4,000）を原図に使用している。

6　本調査に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会において保管されている。

7　発掘調査から本報告書刊行までの間、以下の諸氏・諸機関から多大なご助言、ご教示、ご配慮を賜った。感謝申し上げたい。（順不同・敬称略）
伊藤公明・今福利恵・小野正文・櫛原功一・小林健二・笹本正治・佐野隆・萩原三雄・平野修・村松佳幸・森原明廣・渡辺康彦・峡北地域振興局道路課・山梨県教育委員会学術文化財課・山梨県埋蔵文化財センター

8　組織
韮崎市遺跡調査会
事務局長　作地敏久・奥石薫
課　　長　山本雄次
室　　長　水川秋人・横森竹千代
リーダー　山下孝司
調査担当　関間俊明・桜木雅紀
調査参加者（順不同・敬称略）
阿部由美子・石原ひろみ・上野理江・上野慎司・漆原弘子・小野初美・土屋啓子・深沢真知子
整理作業参加者（順不同・敬称略）
阿部由美子・石原ひろみ・上野理江・漆原弘子・小野初美・土屋啓子・深沢真知子

凡例

1　遺跡全体図をはじめとする測量データのX・Y座標数値は、平面直角第8系に基づく値である。各遺構平面図中の北を示す方位は、すべて座標上の北を示す。磁針方位は西に約6度傾く。

2　遺構及び遺物の縮尺は原則、次のとおりである。
遺構　竪穴住居跡　1：40
　　土坑・炉・柱穴　1：20
　　溝・全体図　任意
遺物　土器　1：4
　　小型石器　2：3
　　大型石器　1：3又は1：4
　　その他　任意

3　竪穴住居跡内遺物出土状況図のポイントは遺構内の層位を示す。▲：直上層、■：上層、△：下層、★：床面直上、○：付属施設覆土である。

4　竪穴住居跡の一点破線は堅緻な貼床範囲を示す。ただし、全面に渡る場合にはあえて図示していない。

5　やや薄いスクリントーンは炉もしくは炉内の赤化範囲を示し、濃いものは炭化物を多量に含む土壌範囲を示す。

6　土層観察表中のＨＬＢ：ハードロームブロック、ＦＲ：焼土粒子、Ｃ：炭化物粒子とする。

目次

第1章　発掘調査の経緯と概要……1
　第1節　調査経過……1
　第2節　調査概要……1
　第3節　過去の調査概要……1
第2章　坂井遺跡から発掘された遺構と遺物……1
　第1節　竪穴住居跡……1
　第2節　土坑・掘設土器……7
　第3節　土器等集中部（南地区）……7
　第4節　方形周溝墓（南地区）……7
　第5節　溝……8
第3章　坂井南遺跡から発掘された遺構と遺物……8
　第1節　竪穴住居跡……8
　第2節　方形周溝墓……8
　第3節　遺構外の遺物……8
第4章　自然科学分析……9
　第1節　試料……9
　第2節　分析方法……9
　第3節　結果……10
　第4節　考察……10
第5章　成果と課題……57
　第1節　坂井遺跡の調査について……57
　第2節　坂井・坂井南遺跡内の中・近世概観……57
写真図版

第１章　発掘調査の経緯と概要

第１節　調査経過

平成15年度に韮崎市上下水道課から坂井地区下水道敷設予定地内の埋蔵文化財包蔵地有無確認の依頼書が韮崎市教育委員会へ提出された。予定地内が周知の包蔵地である坂井遺跡及び坂井南遺跡であることから、文化財保護法（以下「法」とする）に基づき法57条の提出を市教委は指導した。法57条に基づき、市教委は試掘調査し、埋蔵文化財が地下に埋蔵されていることを確認した。

平成16年度に韮崎市と韮崎市遺跡調査会の間で発掘調査に関する契約を締結し、同年度８～９月及び２～３月にかけて現地調査し、整理は平成17年度に実施した。

第２節　調査概要

下水道敷設予定地が３ヶ所に分かれるため、坂井遺跡を２地点（北地点と南地点とする）、坂井南遺跡を１地点として調査した。いずれも舗装道路であることから、重機等を用い、舗装部分及び表土を除去後、手作業により遺構の平面形態確認をした。

坂井遺跡北地区では任意にグリッドを設定し、整理段階で公共座標に即したグリッドへ変換した。遺構外の遺物の注記については、調査時のグリッド名を用いているが、本書でのグリッド名は変換後のものである。

坂井遺跡南地区は公共座標を北地区から移動し、グリッドを設定した。

坂井南遺跡では、表土除去中に遺構外遺物が確認されなかったことから、グリッドは設定せず、任意の４地点の公共座標を算出し、記録した。

第３節　過去の調査概要

坂井遺跡及び坂井南遺跡（以下「両遺跡」とする）は八ヶ岳山麓から延びる韮崎岩屑流で構成される七里岩台地上に占地する。七里岩台地は小円頂丘が点々とみられ、その高台に遺跡が所在することが多い。両遺跡もこの条件に当てはまり、高台の存在と共に湧水地が存在する。

①坂井遺跡

坂井遺跡で発掘調査の契機になったのは大正14年に志村滝蔵氏が畑の天地返しの際に遺物が出土したことなどによる。その後志村氏等によって継続的に調査され、その集大成である『坂井』が刊行される。

坂井考古館が完成後、市内をはじめ多くの児童・生徒達が来館し、坂井遺跡が語る原始・古代について志村氏の話に耳を傾け学習した。滝蔵氏亡き後は、息子富三氏によって館の管理は行われている。

その後、しばらく坂井遺跡での発掘調査はなかったが、1990年に鉄塔建替に伴い、３地点（村ノ前地区・茅林地区・天神前地区）でおこなわれた。これにより坂井遺跡地内には依然として数多くの遺構・遺物が地中に保存されていることが再確認された。今回の調査は舗装道路下部であり、保存状態は不良であると考えられたが、一部の天地返しを除けば良好であった。なお、現段階の坂井遺跡の経過は第１表のとおりである。

②坂井南遺跡

坂井遺跡の南側に位置する坂井南遺跡は、東京エレクトロン株式会社建設に伴う1983年調査がその端緒である。甲府盆地東部の曽根丘陵周辺を中心に確認されていた方形周溝墓群が北巨摩地域で最初に確認されたことで注目された。その後も同社の増築や駐車場整備等に伴い調査された。その結果、居住域と墓域が近接して存在していることが確認されるに至っている。坂井（茅林地区）の調査で方形周溝墓が確認され、また今回の坂井遺跡北地点で当該期の竪穴住居跡が検出されていることから、坂井南遺跡だけでなく、坂井遺跡地内にまで弥生時代後期から古墳時代前期の集落が広がることは確実である。

第２章　坂井遺跡から発掘された遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

（北地区）

１号竪穴住居跡

調査区の西側に位置する。やや暗い暗褐色土の広がりを精査時に確認した。当初は重複とは捉えることができず、竪穴覆土を掘り下げ中に、理設土器及び床面を検出するに至り重複していることを認知した。新しい住居跡を２号竪穴住居跡とし、古い方を１号竪穴住居跡とした。

直径は約4.5mと想定でき、確認面から床面までの深さは20cm程度である。床面はやや凸凹し、壁線である。東壁は明瞭でなく立ち上がりは曖昧である。覆土堆積観察から、３層は壁際崩落防止の施設の痕跡である可能性があり、３層よりも内側が竪穴の使用空間ということになる。

床面から遺構確認面まで遺物を大量に含む。特に床面からやや浮いた状況で大型の遺物が竪穴内中央に顕著に見られた。

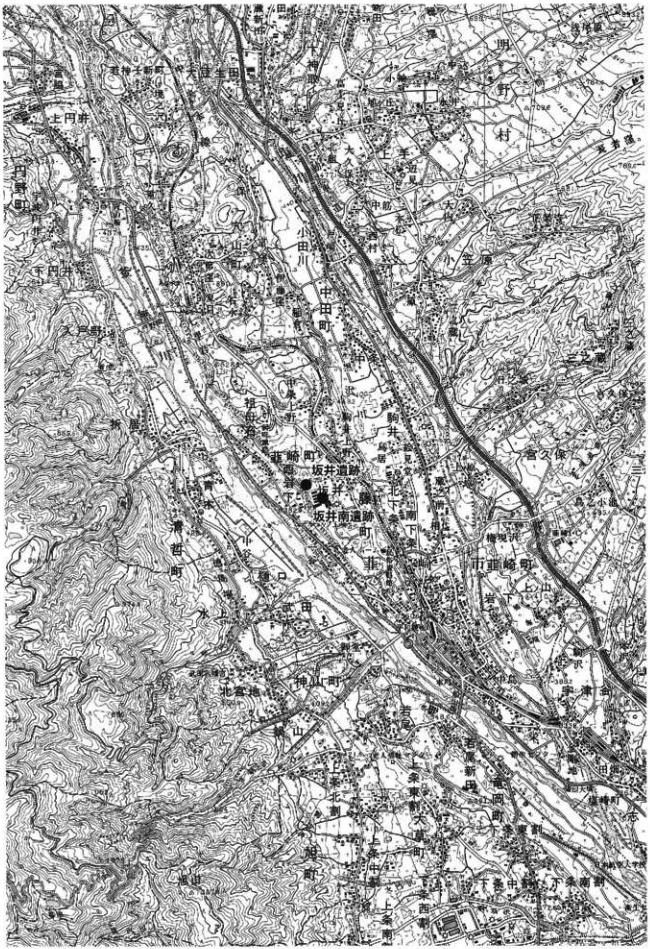
竪穴内の東壁に接して直径約１m、深さ80cmの土坑が設けられている。土坑内の底面から中位にかけて遺物が出土した。底面付近の低位置に大型の礫があり、その上

坂井遺跡関連年表

和暦年	西暦年	月	日	内　容	文　献
	1901			志村滝蔵氏誕生。	
大正13年	1924	2	25	『旅路史』巻1巻に坂井遺跡出土の土偶紹介される。執筆者：鳥居龍蔵	鳥居龍蔵『旅路史』P203～207
大正14年	1925			坂井717番地（第一地区）天地返しによって遺物出土。	『坂井』
昭和3年	1928			薄磨b式土器片と矯沢式磨面把手が志村滝蔵により採取される（天神前遺跡調査の発端）。	『坂井』
昭和4年	1929	7	25	『武蔵野』14-1に「七里岩の上から」掲載される。執筆者：志村滝蔵	『武蔵野』
		8	1	『史跡名勝天然記念物』4-8に「山梨縣穴山村石器時代遺跡」掲載される。執筆者：新宮久	『史跡名勝天然記念物』
昭和5年	1930	8	1	『史跡名勝天然記念物』5-8に「山梨縣北巨摩郡発見の土偶」掲載される。執筆者：船窪久	『史跡名勝天然記念物』
		10	1	『史跡名勝天然記念物』5-10に「山梨縣坂井の大石臼」掲載される。執筆者：船窪久	『史跡名勝天然記念物』
昭和7年	1932			『武蔵野』18-3に「七里岩南部の先史遺跡及遺物に就いて」掲載される。執筆者：志村滝蔵	『武蔵野』
				『先史原始古代調査』刊行（北巨摩郡教育会郷土研究部会）。	
昭和23年	1948	1	6	坂井693番地測量調始。調査者：志村滝蔵、志村富蔵。	『中央線』第2号
		2	20	山梨郷土研究会発掘参加。三枝豊衛・井出佐重・藤井小中学校職員及び生徒30名等参加。	『中央線』第2号
			21	山梨郷土研究会発掘参加。三枝豊衛・井出佐重・藤井小中学校職員及び生徒31名等参加。	『中央線』第2号
			22	山梨郷土研究会開発研究発表会開催。野口二郎、武田与十郎、七科義比呂、三枝豊衛、渡川清三、井出佐重、生藤森三、内藤大丈夫、山寺仁太郎、木戸敬、穴山中学校生徒200名等、340名の参加。	『中央線』第2号
		4	8	坂井遺跡保存会設立（名誉会長：吉江勘保）。	『坂井』
		7		『郷土研究』第1号に「坂井遺跡と私」掲載される。執筆者：志村滝蔵	『郷土研究』第1号
昭和24年	1949	12		坂井考古館建設貸助成金10万円交付される。	『坂井』
昭和25年	1950	3	24	坂井716番地東南隅炉石発見。調査者：志村滝蔵、志村富三、小林政三。3月24日～4月15日。見学者：小沢秀之、白倉浩 ロ号址：曽利式	『中央線』第2号、『坂井』
		10		考古館建設（佐口武治指助）、落成式開催（県知事等参加）。	『坂井』
				観光山梨新十景に「坂井遺跡と新府城」が選ばれる。	
昭和26年	1951	1		志村滝蔵『坂井』執筆開始。	『中央線』創刊号
		3	16	坂井687番地で男性土偶発見。調査者：志村滝蔵、志村富三・永峰光一・野口義麿。	『中央線』第2号
		5		『坂井』脱稿。	『中央線』創刊号
昭和28年	1953	10		天神前遺跡で実測採集調査実施。	『坂井』
昭和29年	1954	1	6	八幡一郎『坂井』校閲し、修正を勧める。八幡一郎、天神前遺跡来訪。	『中央線』創刊号、『坂井』
昭和29年	1954	2	2	文化財保護委員会、天神前遺跡の発掘調査を承認。	『坂井』
昭和29年	1954	2	4	天神前遺跡発掘調査開始。調査者：志村滝蔵、志村富三、小林政三、野沢昌康、八幡一郎、鎌山昇一。見学者：折井忠義、三枝善衛、上野晴朗、塩出義雄、江利川音次、小沢秀之、白倉義幸、白倉浩、上野春一、下野泰夫、小林鳳次、春居高校（教師5名、生徒113名）他	『坂井』
			21	天神前遺跡の詳細b式炉の竪穴住居址調査終了。	『坂井』
		5		『中学時代』に「山梨の遺跡」で坂井遺跡が具体的に紹介される。執筆者：旺文社記者鳥居何某	『中学時代』五月特大号

昭和31年	1955	3	6	大正14年度に実施した第一地区の天地返しを再開。	「坂井」
			11	第一地区（ハ号址）の発見届を文化財保護委員会へ提出。	「坂井」
			28	ハ・ニ号地点発掘調査開始。調査担当：八幡一郎　調査者：志村滝蔵・志村富三・志村満恵・國學院大學考古学部員６名	「坂井」
		4	10	ホ号地点発掘調査開始。	「坂井」
			11	各新聞・ラジオ等で発掘調査状況が公開された。	「坂井」
			13	ホ号炉址周辺が「猿合址」であることが確認され、追及を開始する。	「坂井」
			15	第一地区の発掘作業終了。上野晴朗・二枝美衛調査に加わる。	「坂井」
			25	八幡一郎来跡。	「坂井」
昭和33年	1958	5	31	『中央線』第２号に「坂井遺跡について」掲載	「中央線」第２号
昭和34年	1959	3	25	『日本考古学年報８』に「山梨県韮崎市（坂井）大神前遺跡」の昭和29～30年の概報掲載される。	『日本考古学年報８』
昭和35年	1960			志村滝蔵、文化財保護功労者表彰を受ける。	『坂井遺跡』
昭和37年	1962	5		『坂井』脱稿、八幡一郎校閲。	「中央線」創刊号
				志村滝蔵、山梨県教育功労者表彰を受ける。	『坂井遺跡』
		8		『坂井』刊行。	「中央線」創刊号
昭和40年	1965	7	30	『坂井』地方書院から刊行。	
昭和43年	1968	3	1	『中央線』創刊号に「坂井出版に思ふことども」掲載	「中央線」創刊号
昭和46年	1971	4	3	志村滝蔵死去（享年70歳）	
昭和53年	1978	3	30	『韮崎市誌』上巻刊行。第一章に載る坂井遺跡出土資料の整理を志村富三、武笹を森新敏がおこなった。	『韮崎市誌』
平成６年	1994	4	29	山梨県立考古博物館で「坂井遺跡50年展」が開催される。（～５月29日）	「坂井遺跡50年展」パンフレット
		5	10	山梨日日新聞に「坂井遺跡50年～志村滝蔵　発掘の軌跡　上」掲載される。	『山梨日日新聞』
			12	山梨日日新聞に「坂井遺跡50年～志村滝蔵　発掘の軌跡　下」掲載される。	『山梨日日新聞』
平成８年	1996	3	31	「年報－平成７年度－」に「北巨摩郡考古学事始」・「坂井遺跡－回顧と展望－」が掲載される。	「年報－平成７年度－」
平成９年	1997	10	1	坂井遺跡（村ノ前・茅林・天神前）３地区を韮崎市教育委員会が、逗竜線建設に伴い調査を実施。	『坂井遺跡』
平成10年	1998	1	8	坂井遺跡（村ノ前・茅林・天神前）３地区の屋外調査終了。	『坂井遺跡』
平成10年	1998	6	30	『坂井遺跡－逗竜線鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』刊行。	『坂井遺跡』
平成12年	2000	3	31	『図説韮崎・巨摩の歴史』で「山梨の考古学の再開け『坂井遺跡』」が掲載される。	『図説韮崎・巨摩の歴史』
平成16年	2004			坂井遺跡（村ノ前地区）を韮崎市教育委員会が下水道敷設工事に伴い調査を実施。	『坂井遺跡・坂井南遺跡』
平成17年	2005	3		坂井遺跡（村ノ前地区）の屋外調査終了。	『坂井遺跡・坂井南遺跡』
		10	1	山梨県立考古博物館・山梨県考古学協会による遺跡発表会で「坂井遺跡」が発表される。	『山梨考古』
平成18年	2006	3	31	『坂井遺跡・坂井南遺跡－下水道敷設工事に伴う発掘調査報告書』刊行。	『坂井遺跡・坂井南遺跡』

＊本年表は現段階で手に入れることのできた参考文献や資料から作成していることから、重要な事実が抜けていることも考えられるが、ご容赦願いたい。
＊年表上の人物名の頭は参考文献で確認した調査参加日・見学日の順で記している。
＊関係誌により同一内容の日付が異なる場合があったが、前後関係を考慮して修正可能なものは修正したが、不可能なものについてはそのまま記すこととした。
＊平成以降の調査については甘粕の日誌を参考とすることを省略している。



第１図　坂井・坂井南遺跡位置図（Ｓ＝1/50,000）

第２図　調査地点位置図

に大型土器片が正位の状況で出土した。土器はほぼ正位に出土したが、接合の結果、底部はなく胴部・口縁部も全周せず、貯蔵用に用いられた土器ではなく、竪穴内のその他の遺物の廃棄行為に伴うものと考えられる。

土坑内の出土土器及び竪穴覆土内出土土器から井口尻3式から曽利Ⅰ式に移行する段階に所属する。

2号竪穴住居跡

調査区の西側に位置する。1号竪穴住居跡（以下「1住」）と重複し、本住居の方が新しい。

調査区外にまで住居が広がることが確実なことから平面規模については不明である。1住との重複部分の床面は脆弱であり、確認は困難であった。直径は約5.5mと想定でき、確認面から床面までの深さは25cm程度である。

土器は逆位に埋設され、底部は穿孔され、穴を塞ぐように平坦な石が置かれ、その石を囲うように2点の礫が設置してあるように確認された。口縁部の途中から口唇部は欠いた状態で埋設されている。埋設土器内の堆積土は異質であり、底面から中半まで極めて硬く締まった土壌であった。この土壌については自然科学分析を実施した。その結果は第5章第1節にある。埋設時の東側にA0－SD4とした土坑があり、その掘削時の圧力により埋設土器に破損箇所がある。その破損箇所の破片が埋設土器内の硬化土壌の上面にあることから、A0－SD4の構築以前に、埋設土器内の中位までの土壌の硬化ないしは、埋設土器内への土壌堆積が進行していたことを示している。

埋設及び床面出土土器から曽利Ⅱ式期に所属する。

3号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。遺構確認面と耕作土層の境界が曖昧であったことから、掘削後の調査区境界の土層断面の観察により竪穴住居の存在を確認した。床面はロームを貼りたたきしめている。一辺5m程度の方形プランと考えられる。

弥生時代後半から古墳時代前期に所属する。

4号竪穴住居跡

欠番

5号竪穴住居跡

欠番。北地区の東端部分で遺物を含む暗褐色の遺構を確認し、住居跡として調査を開始したが、溝跡であることを確認したことから、住居番号を欠番とした。遺物への注記は、確認時の遺構名が付されている。

6号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。隣接して3号竪穴住居跡がある。地山よりもやや黒い落ち込みを確認したことから竪穴住居跡とした。床面は軟弱で明瞭でなく、東側の壁の立ち上がりは数cmで、西側の立ち上がりは確認できなかった。一辺3.5m程度の方形プランと考えられる。

弥生時代後半から古墳時代前半の所産である。

7号竪穴住居跡

10号竪穴住居跡と重複し、本住居が新しい。暗黒褐色土が平面的に広がることから住居跡と捉えた。一辺4m程度の方形プランと考えられる。

平安時代の所産である。

8号竪穴住居跡

遺物が集中して確認されたことから住居跡と判断して調査を進めた。遺物は礫認面から床面に至るまで間断なく出土したが、特に炉跡周辺では大型の破片が集中していた。竪穴の西側は他住居と重複していることから、平面形態・規模については不明確だが、直径6m程度の円形プランと考えられる。

炉跡周辺では、道路敷設のための圧力により土器がもろく出土状況を図化することはできなかった。出土遺物の接合をした結果、曽利Ⅱ式のX字状把手付大型深鉢の胴部～口縁部にかけて存在したことが明らかになった。この土器は、竪穴内にレンズ状に堆積土が堆積した段階で炉の上に逆位に廃棄された可能性を掘下げ時の観察から想定できる。炉内や炉上面に、炉の機能停止後に廃棄行為の一環として同様な事例が確認されており、本例もその一つのあり方を示しているといえる。

炉跡内からは、第29図8住－4が出土している。二次的に被熱し、疱瘡状の剥落が著しい。周辺の遺物でこのような状況を認めることができないことから、炉が機能している状況下で用いられたか、炉機能停止後の廃棄行為に伴って火を用いて土器を二次的に焼いたものと想定できる。炉内の隅に小型深鉢が設置されている例があり、本例は設置された土器が廃棄時に倒れた結果と捉えられよう。

東壁付近では壁際堆積ないしは棚状施設と考えられるようなローム質の覆土と床面にはさまれた状況で、頭部を床面に向けた土偶の頭部1点、装着部の欠損した磨製石斧1点と礫器2点が出土した（第12図）。覆土部分は当初、地山と考えられるほどローム質で均質なしまりのある土壌であったことから、これらの遺物は竪穴住居の廃棄行為に伴うものではなく、竪穴使用時の行為の一例と捉えることができる。土偶はこの他3点出土しているが、竪穴内や柱穴の覆土内である。

曽利Ⅱ式の所産と考えられる。

9号竪穴住居跡

略方形のコーナー部分の平面プランを確認したことから竪穴住居跡とした。規模については不明である。

図化し得なかったが弥生時代後半から古墳時代前半の土器が出土していることと竪穴住居跡の平面形態から当該期の所産と考えられる。

10号竪穴住居跡

7号竪穴住居跡と重複し、本住居が古い。やや暗い暗褐色土が平面的に広がることから住居跡の可能性を視野に入れて掘り下げ、埋設土器を確認したことから住居跡と認定した。

調査区外に住居が広がること及び他住居と重複することから平面形態・規模については不明確であるが、直径

6ｍ程度円形を呈すると想定できる。

埋設土器は竪穴内の西側に位置し、底部を欠く深鉢形土器を正位に埋設したものである。口縁部は一部のみ残存している。きわめて脆弱な胎土をしている。

埋設土器から井戸尻１式期の所産である。

11号竪穴住居跡

１号竪穴住居跡と10号竪穴住居跡の間に地山とは異なる炭化物・焼土粒子を微量に含む暗黄褐色土が認められたことから竪穴住居跡と捉えた。ただし、あまりにも狭小であることから、周辺の調査によって竪穴住居跡ではない可能性を残している遺構である。平面形態・規模などは不明確だが、直径4.5m程度の円形と考えられる。

12号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土が平面的に広がることから住居跡と捉えた。東壁と西壁が平行でないため、規模については不明であるが、S字状口縁台付甕の口縁部片が出土しているので古墳時代前半の所産である。隅がやや丸い方形の形態と考えられる。

竪穴内のほぼ中央で炉を確認している。炉は円形の掘り込みで、南側に３点の円礫をほぼ直線的に配したものである。

13号竪穴住居跡

黒褐色土が平面的に広がることから住居跡と捉えた。東壁周辺が近代以降と想定される土地改変により壊されているため、規模については不明確だが、古墳時代前半の所産であることから、隅がやや丸い一辺4.5m程度の方形の形態と考えられる。柱穴跡１基を確認している。

竪穴内のほぼ中央で円形を東西に連結したような半面形態をした炉を確認している。南側は調査区外へ広がることからその規模については把握し得なかった。調査範囲の西側で不整形な焼土が確認され、その北側に２点の細長い礫が配されていた。礫は熱によるものと考えられる赤化が認められた。

出土遺物から古墳時代前半の所産である。

第２節　土坑・埋設土器

複数の土坑等を確認したが、以下では遺物の出土した土坑等に限定して報告する。

ＡＯ－１号土坑

直径約60cm、確認面からの深さ60cmの円形の土坑である。覆土下層から上層に曽利Ⅲ式期の土器が包含されているが、掘設した状況とは考えにくい。

ＡＯ－４号土坑

直径約90cmの略円形を呈し、確認面からの深さは約45cmである。覆土中層に遺物が集中している。土坑掘削後、20cm程度の堆積後に土坑中央に遺物が廃棄された状況である。

曽利Ⅱ～Ⅲ式の土器が出土している。

ＳＤ－Ａ

直径約80cmの略円形を呈し、確認面からの深さは約50cmである。北壁の上層部と中央底面にかけて土器片が出土した。上層部と底面部の破片とに接合関係が認められることから、土坑掘削後に土坑内に土壌が自然堆積し始める以前に、遺物の廃棄行為が行われ、その際に土坑内に土が入れられたものといえる。

１号埋甕（埋甕Ａ）

埋設土器ＡとＢは隣接し、ほぼ同時期に埋設されたものと考えられる。

直径約70cmの円形土坑にＸ字状把手付深鉢形土器を逆位に埋設したものである。胴部下半から底部にかけては破損した状況であるが、埋設時に故意に破損させたのか、埋設後の破損であるかは特定できない。なお、北側には曽利Ⅴ式の土器片を含む土坑により破壊されている。

土壌堆積状況は第20図のとおりである。1a～1c層は明黄褐色土でしまりが強い。竪穴住居の貼床もしくは土器埋設後に固めた可能性を考えることができる。

２号埋甕（埋甕Ｂ）

道路工事以前の耕作等によって埋設部の上半は破壊されたものと考えられる。埋甕内から輝緑凝灰加工のある黒曜石製の剥片石器が出土している。埋納なのか混入なのかは判断できない。

第３節　土器等集中部（南地区）

南地区の調査区中央付近、Ｇ25グリッドで土器片を主体とする集中部を確認した。沢が埋没した窪みへの廃棄場と捉え、土器捨て場（ＤＳ）として調査をおこなった。

沢は幅約16m、深さ約1.4mであり、底面はやや凸凹している。底面及び下層部から遺物が出土していないことから、沢の埋没開始時は不明である。遺物が沢埋没層の上層面に集中していることから、沢はほぼ埋没し、周辺よりもやや窪んだ状況であったと考えられる。また、隣接する坂井南遺跡ではこの沢の南側に相当する遺構が小規模没沢として調査されているが、遺物に関しての報告はされていない。このことから、極めて限定された範囲・時期に廃棄行為が行われたといえる。

出土土器は曽利Ⅳ式期が主体であり、この時期に廃棄場として使用されたといえる。遺物の出土する主体層は１層であり、その上面をⅡ層が覆っている。古代の生成層と考えられるⅡ層はほぼ水平に堆積しており、古代には沢としての形状は認識できない状況であったといえる。

調査途中で特に遺物が集中している地点があり、土器捨て場遺物集中地点（ＤＳＩＢ）として調査を実施した。大型土器片の下に平坦な大型礫の存在を確認した。大型土器片の遺物集中範囲がほぼ同一であること及び、他の部分よりも遺物出土レベルが低いことから、掘り込みを持つ土坑があったことを想定できる。

第４節　方形周溝墓（南地区）

1983年に実施された坂井南遺跡２次調査Ｄ地区で検出された第２号方形周溝墓の北側の周溝内の一部を確認し

た（『坂井南遺跡』1984山下孝司）。調査時並びに遺物への注記への遺構名として1号周溝墓（SR01）としたが、本書では第2号方形周溝墓として報告する。

方形周溝墓の北辺の溝内のやや北寄よりを掘削したものと考えられる。遺物は縄文時代を中心としたもので、当該時期の資料は出土しなかった。83年調査及び97年調査（茅林地区）（『坂井遺跡』1998山下孝司他）で検出された周溝墓はいずれも七星台地の西側急傾に近くに立地し、これまでのところ隣接して竪穴住居跡などは確認されていない。

第5節　溝

（北地区）

6本の溝跡を確認した。6号溝以外は現状の土地区画との整合性は認められない。いずれの溝も暗褐色土を覆度とし、粘性等もない。6号溝は現状の道と平行していることから、舗装以前の道の側溝の可能性がある。

（南地区）

5本の溝跡が確認された。いずれも南北に長い溝である。現状の土地区画との整合性は認められない。

1・3・4号溝は暗褐色土を覆土とし、粘性等もないことから舗装以前の畑の耕作等に関わる溝と考えられる。

2号溝の確認面では暗黒褐色土が堆積し、他地点で確認されている古代の土壌と類似していることから、古代の遺構と考えられる。

5号溝は覆土の一部にロームを主体とする明黄褐色土と暗褐色土が逆転堆積し、底面の凹凸が著しいことから、風倒木痕の可能性が高い。

第3章　坂井南遺跡から発掘された遺構と遺物

第1節　竪穴住居跡

1号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土が方形状に確認できたことから竪穴住居跡として調査を実施した。北東隅から北壁の一部にかけてのみの確認であったことから、規模については不明である。貼り床等は確認していない。また、遺物の出土はなかった。

2号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土の落ち込みを確認したことから竪穴住居跡とした。遺構確認面から床面までは約40cmであり、5.5m程度の方形と推定される。枕石を伴う直径80cm前後、深さ15cmの地焼炉がある。炉の中央部に深さ20cmのピットがある。床面に接して台石（第40図2住－3）が出土している。台石のほか、単孔甑（同図2住－2）なども出土している。

3号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土の落ち込みを確認したことから竪穴住居跡とした。遺構確認面から床面までは約40cmであり、4.5m程度の方形と推定される。火床面に段差のある地焼炉がある。炉の周辺からは床面に接した状態で台付甕（第42図3住－1）、甕（同図3住－7）、高坏（同図3住－5）などが出土している。

4号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土の落ち込みを確認したことから竪穴住居跡とした。遺構確認面から床面までは約40cmであり、4.5m程度の方形と推定される。直径90cm程度の円形の浅いくぼみの地焼炉がある。炉跡覆土から櫛描波状文の施文された甕の口縁部（第43図4住－1）が出土している。

5号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土の落ち込みを確認したことから竪穴住居跡とした。遺構確認面から床面までは約60cmであり、4m程度の方形と推定される。

6号竪穴住居跡

やや暗い暗褐色土のシミを確認し、土層堆積状況の観察から竪穴住居跡とした。遺構確認面から床面までは約10cmである。遺物の出土はなかった。

7号竪穴住居跡

8号竪穴住居跡と重複し、土層堆積状況の観察から古い段階のものである。東壁の一部のみの確認のため、規模等は不明である。遺構確認面から床面までの深さは約70cmである。11層は竪穴外から流れ込み、若干の盛り上がりがあることから、周堤の存在した可能性がある。17・18層は竪穴覆土を切っており、竪穴埋没途中に掘削された土坑と考えられる。17・18層は竪穴覆土を切っており、竪穴埋没途中に掘削された土坑と考えられるが、平面形態などは不明確である

8号竪穴住居跡

7号竪穴住居跡と重複し、本住居跡の方が新しい。西壁のみ明瞭に確認でき、東壁については調査区境界の土層観察で確認しえた。4m程度の方形プラント考えられる。遺構確認面から床面までの深さは約40cmである。

第2節　方形周溝墓

1つの方形周溝墓を確認した。

同覆土、同幅で同軸の溝2条を確認したことから方形周溝墓とした。一辺10m前後の方形と考えられる。遺物の出土はなかった。

第3節　遺構外の遺物

調査区のほぼ中央をとおる、古墳時代の遺構を破壊する溝の覆土からS字状口縁台付甕などの遺物が出土している。

第4章　自然科学分析

発掘調査の結果、縄文時代中期の堆甕や小河道が検出されている。堆甕の調査では、堆甕内より成因や用途等不明の硬化した土壌が確認され、小河道からは炭化材が出土している。

本章では、1）堆甕内の土壌の硬化した成因の検証、2）堆甕内の内容物の推定、3）河道から出土した炭化材の樹種、といった3点を課題として、自然科学的手法を用いて検討する。

第1節　試料

試料は、3基の堆甕内・外から採取された土壌21試料と炭化材1試料からなる。このうち、堆甕内・外から採取された土壌については、硬化が認められた土壌と比較対照試料を抽出し、さらに、採取位置等が明らかな試料を選択している（表1）。

なお、堆甕内の硬化が認められた土壌の観察では、明確な硬化は確認できず、酸化鉄やマンガンが集積したことによる固結土壌とも捉えがたい試料であり、硬化要因を予測するには至らなかった。土壌硬化の要因としては乾湿の繰り返しによる脱水収縮や踏圧などの物理的要因や、塩分や石灰等の反応による化学的な要因など様々であるが、本分析では後者の土壌の化学的要因について着目し、土壌酸度（pH（H2O））および陽イオン交換容量、交換性陽イオンについて調査を行う。さらに、リン酸含量、腐植含量を調査し、内容物に関する調査を行う。一方、炭化材については、その解剖学的特徴から樹種同定を行う。

第2節　分析方法

（1）土壌理化学分析

pH（H2O）はガラス電極法、腐植含量はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、陽イオン交換容量（CEC）及び交換性陽イオンはショーレンベルガー法でそれぞれ行った（土壌環境分析法編集委員会，1997）。以下に各項目の操作工程を示す。

a）試料調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2㎜の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5㎜篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

b）腐植含量

粉砕土試料0.100~0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液　10ml を正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土％）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（％）を算出する。

c）リン酸含量

粉砕土試料1.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO3）約5ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO4）約10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O5）濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O5mg/g）を求める。

d）pH（H2O）

風乾細土10.0ｇをはかりとり、25ml の蒸留水を加えてガラス棒で撹拌する。30分間放置後、再びガラス棒で懸濁状態とし、pH メーター（ガラス電極法）で pH（H2O）を測定する。

e）陽イオン交換容量（CEC）・交換性陽イオン

風乾細土試料5.00ｇを浸透カラムに秤りとる。これをCEC 測定用の土壌浸出装置に装着し、1 N酢酸アンモニウム溶液（pH7.0）100ml を加え、4～20時間で置換洗浄し、交換性塩基を浸出させる。交換浸出液全量を200ml メスフラスコに入れ、水で定容とする（交換性陽イオン測定浸出液）。次に80％エタノール（pH7.0）50 ml を加え、余剰な酢酸アンモニウム液を4～20時間で洗浄する。さらに10％塩化カリウム（pH7.0）を加え、4～20時間で再び置換洗浄する。置換洗浄された液すべてを200ml メスフラスコに入れ、水で定容する（CEC 測定浸出液）。

交換性陽イオン測定浸出液の一定量を採取し、適宜希釈し、干渉抑制剤を添加した後、原子吸光光度計によりカルシウム、マグネシウム、ナトリウム、カリウムを定量する。一方、CEC 測定浸出液について一定量を100ml 三角フラスコに正確に採取し、ホルモル法によってアンモニア態窒素を定量する。

これら定量値と加熱減量法で求めた試料中の水分から、陽イオン交換容量（cmolc/kg）及び交換性陽イオン（cmolc/kg）を求める。また、陽イオン交換容量に対する交換性陽イオンの割合を、塩基飽和度（％）として算出する。

（2）炭化材同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電

子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）およびWheeler他（1998）を参考にする。また、各樹種の木材組織配列の特徴については、林（1991）、伊東（1995～1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

第3節　結果

（1）土壌理化学分析

結果を表2に示す。埋甕内土壌は、いずれも軽埴土（LiC）に分類される粘土質な土壌である。土色は暗褐色を呈し、比較的腐植が集積した土壌であることが伺える。腐植含量は概ね3％程度であり、試料間での大きな差異は認められない。リン酸含量については全体的に多く、JU2 SU1で4.04～5.52P2O5mg/g、SU-Aで2.50～3.58P2O5mg/g、SU-Bで2.41～3.54P2O5mg/gである。埋甕毎に見た場合にはJU2 SU1でややリン酸含量が多い特徴にあるほか、各埋甕において下層試料ほどリン酸含量が多い傾向が認められる。

一方、各埋甕内で見られた硬化土壌に関しては、土壌酸度（pH（H2O））は弱酸性を示し、土壌のアルカリ化は認められず、また同一埋甕内における対照試料との比較でも交換性陽イオンのバランスに違いは見られず、塩基飽和度も60％程度と一般的な値であることから、硬化土壌において過度のアルカリ成分が富化された形跡はないと判断される。

（2）炭化材同定

炭化材は、落葉広葉樹のケヤキに同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ（Zelkova serrata（Thunb.）Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたの、多数が複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1－5細胞幅、1－50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

第4節　考察

（1）土壌の硬化の要因

土壌が硬化する要因としては、乾湿の繰り返しによる脱水収縮や踏圧などの物理的要因、塩分や石灰などの反応による化学的要因、あるいは酸化鉄などの膠着物質の介在といった要因が想定される。本分析では、土壌酸度や交換性陽イオンバランス、塩基飽和度などの化学的要因の検証を行ったが、土壌の極端なアルカリ化や塩基が過飽和している状況は認められず、土壌の硬化を促す物質の存在を確認するには至らなかった。

したがって、土壌硬化の要因としては外部からの圧密や焼成、乾燥・脱水収縮による物理的作用の可能性が考えられるが、実際には土壌薄片などの手法を用いた構造観察が必要であり、硬化程度を把握するためにも、土壌硬度を数値化して記録しておくことが望ましく、また三相分布や乾燥密度、粒度組成などの土壌の物性に関わるデータも併せて取得する必要がある。

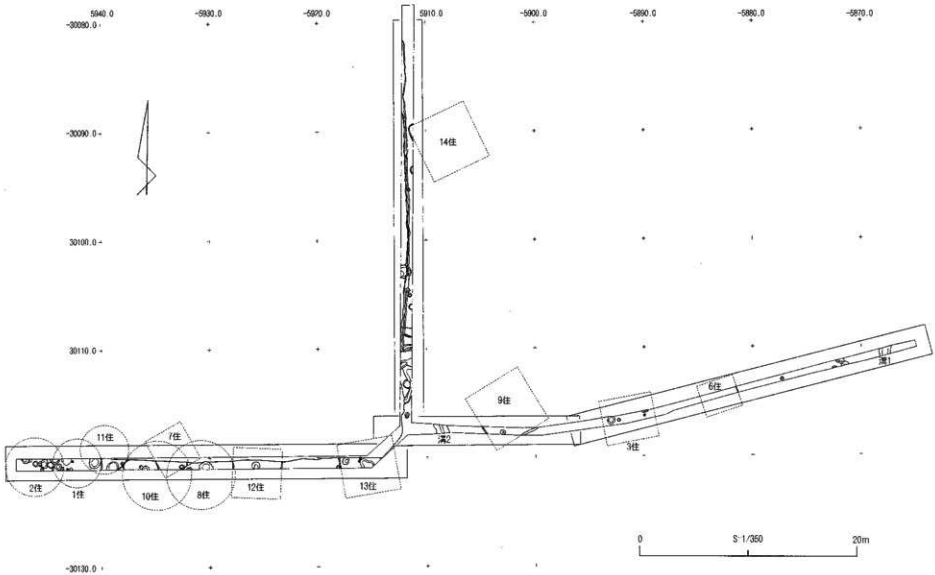
（2）埋甕内土壌の特性

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen, 1983、Bolt・Bruggenwert, 1980、川崎ほか, 1991、天野ほか, 1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P2O5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P2O5mg/g（川崎ほか, 1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片等の痕跡が認められる土壌では6.0P2O5mg/gを越える場合が多い。3基の埋甕内の土壌は、上記した天然賦存量を超えるリン酸が検出されたが、対照試料と位置づけられる埋甕外土壌（JU2 SU1 埋ガメ　土サンプル2・3層）においても天然賦存量を超えるリン酸が検出されている。このことから、覆土の母材となる周囲の堆積物におけるリン酸のバックグラウンドレベルは、一般的な天然賦存量より高い可能性があり、対照試料より高いリン酸が認められたJU2 SU1を除く埋甕内土壌についてリン酸の富化を積極的に評価することはできない。ただし、SU-AおよびSU-Bにおける埋甕内土壌のリン酸の分布状況では、覆土下部においてリン酸が多いといった特徴が指摘される。

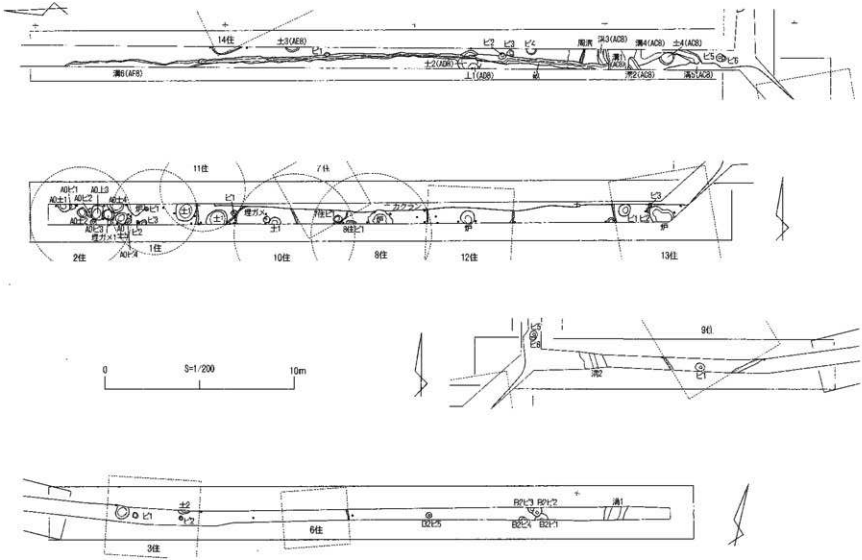
以上の結果から、3基の埋甕においてリン酸が富化された可能性はあるが、動物遺体等の有無が指標とされる高濃度のリン酸は含まれる状態にはないことから、動物遺体等の有無や埋納について言及することはできない。

（3）炭化材

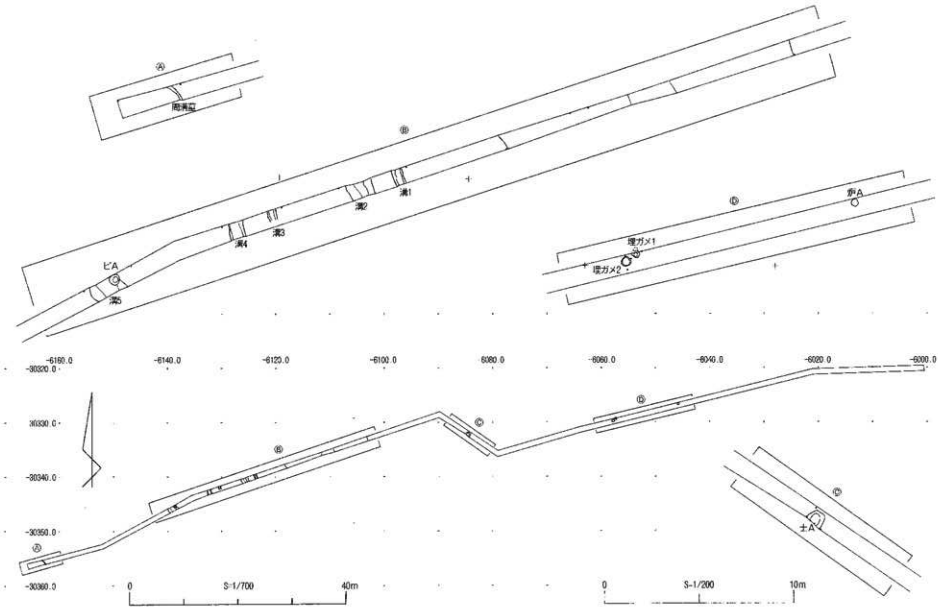
河道から出土した炭化材は、何らかの人為的な影響で火を受けて炭化したことが推定されるが、形状等の観察からは用途等の特定には至らなかった。樹種は、落葉広葉樹のケヤキであった。ケヤキは、重硬で強度や耐朽性が比較的高い材質を有することから、建築や土木、器具材等様々な用途において有用とされる種類である。山梨県内では、日影田遺跡の縄文時代中期～後・晩期とされる焼土遺構から出土した燃料材と考えられる炭化材にケヤキが認められた事例（藤根, 1995）がある。



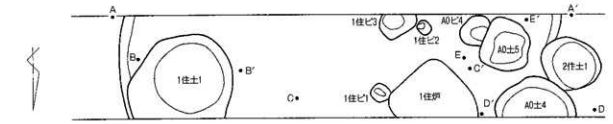
第３図　坂井遺跡遺構配置図(1)

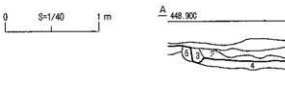


第４図　坂井遺跡遺構配置図(2)

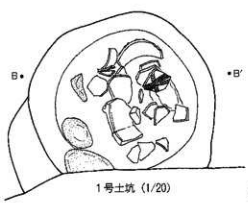


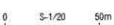
第５図　坂井遺跡遺構配置図(3)





平断面図 (1/40)

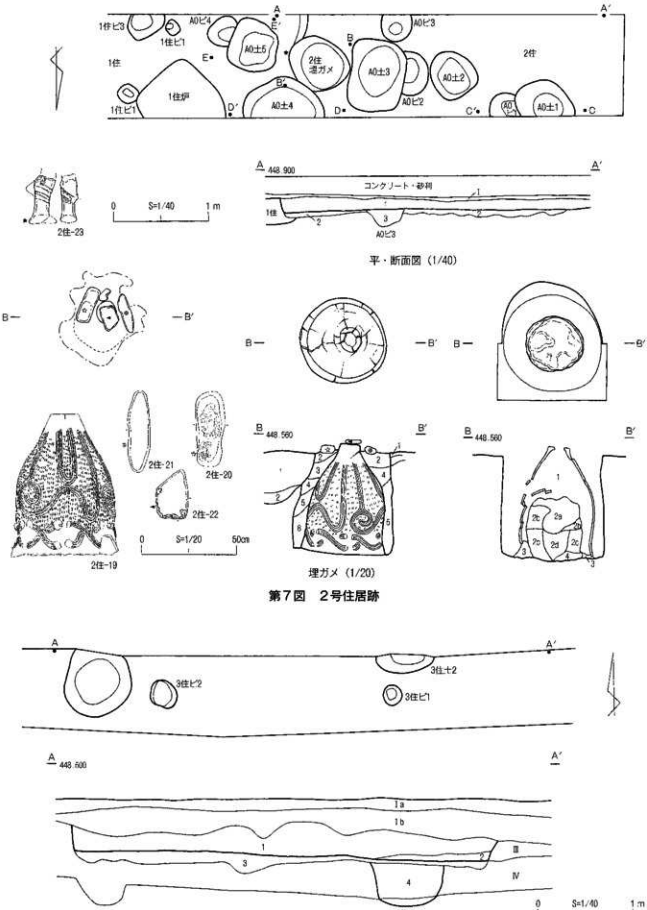




1号土坑 (1/20)

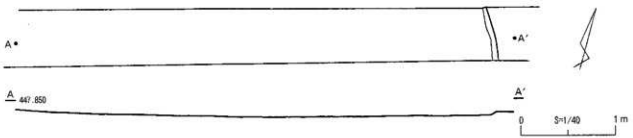
遺物出土状況 (1/20)

第6図　1号住居跡

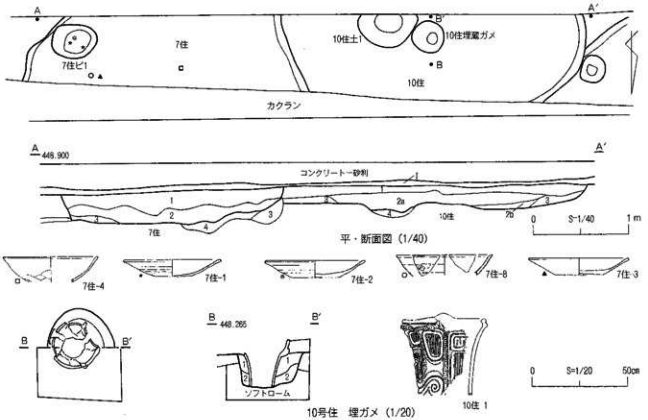


第7図　2号住居跡

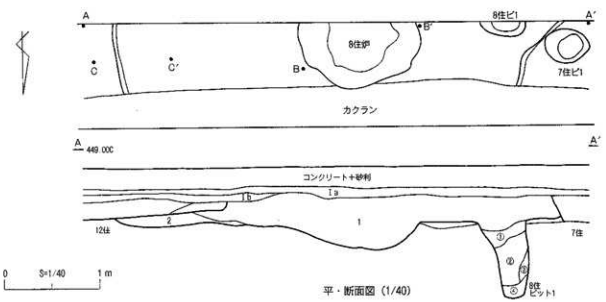
第8図　3号住居跡　平・断面図（1/40）



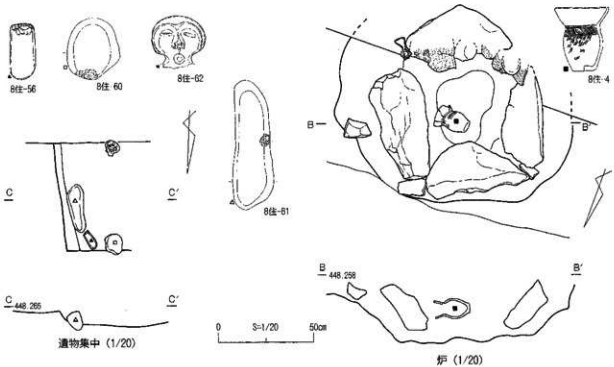
第9図　6号住居跡　平・断面図（1/40）

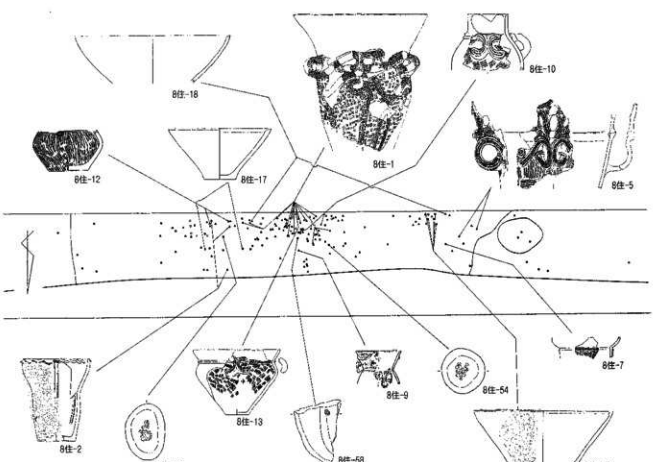


第10図　7号住居跡



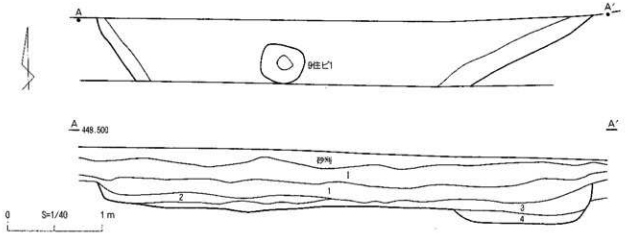
第11図　8号住居跡(1)



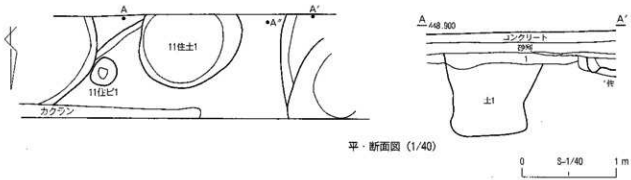


遺物出土状況

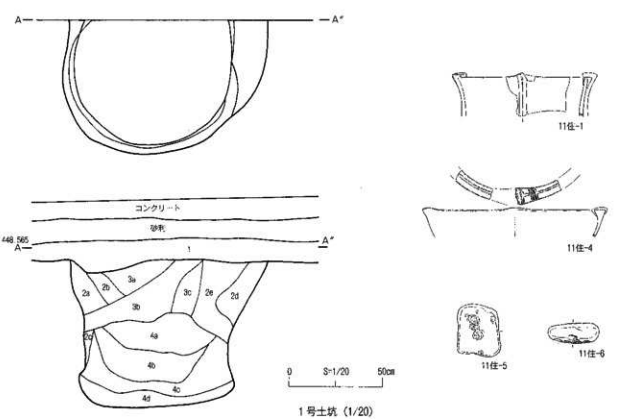
第12図　8号住居跡(2)



第13図　9号住　平・断面図（1/40）

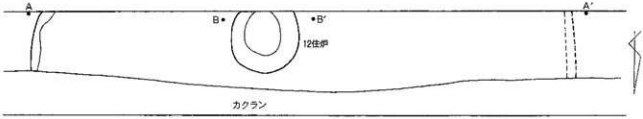


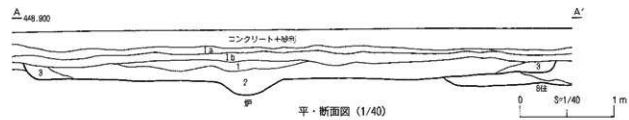
平・断面図（1/40）



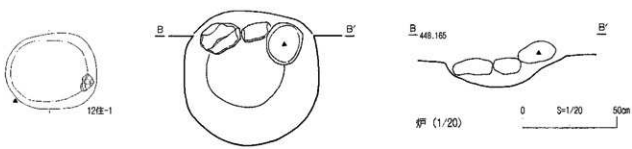
1号土坑（1/20）

第14図　11号住居跡



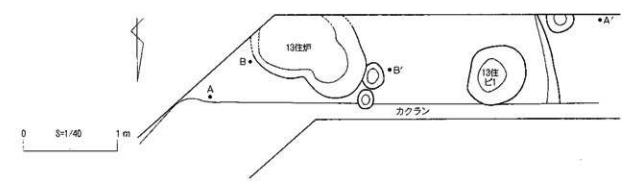


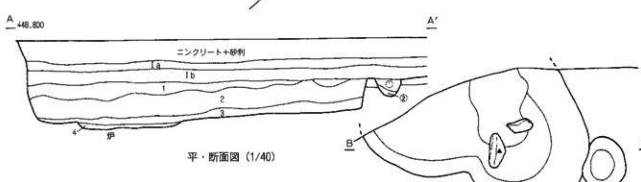
平・断面図（1/40）



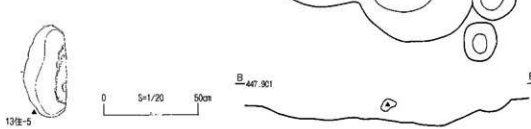
炉（1/20）

第15図　12号住居跡



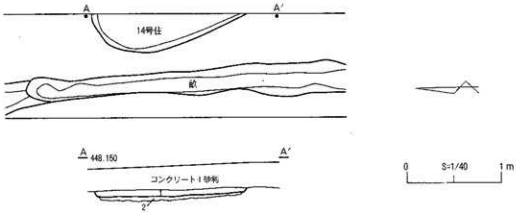


平・断面図（1/40）

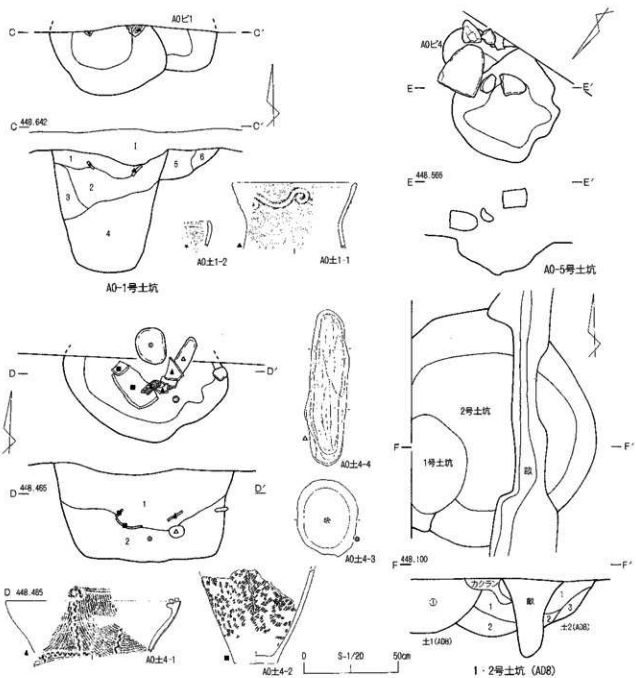


炉（1/20）

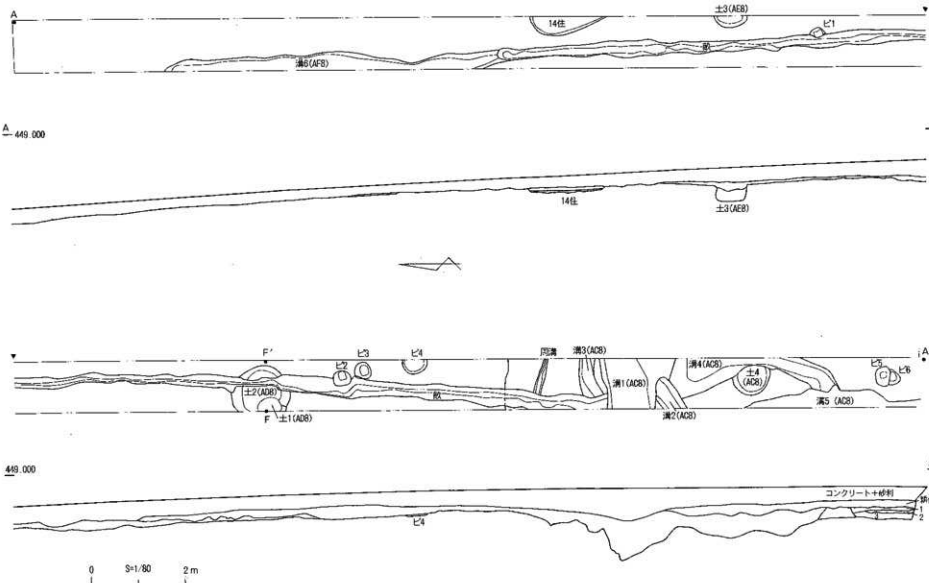
第16図　13号住居跡



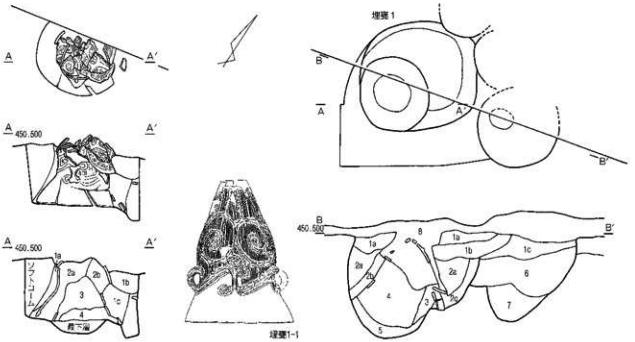
第17図　14号住居跡　平・断面図（1/40）



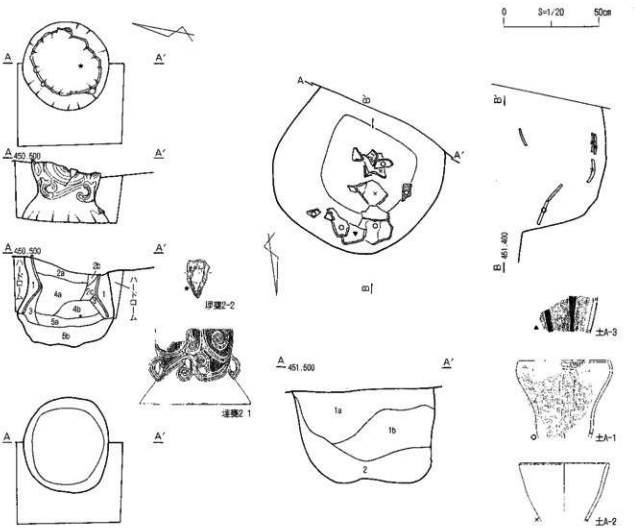
第18図　土坑　平・断面図（1/20）



第19図　北側調査区　南北ライン（1/80）

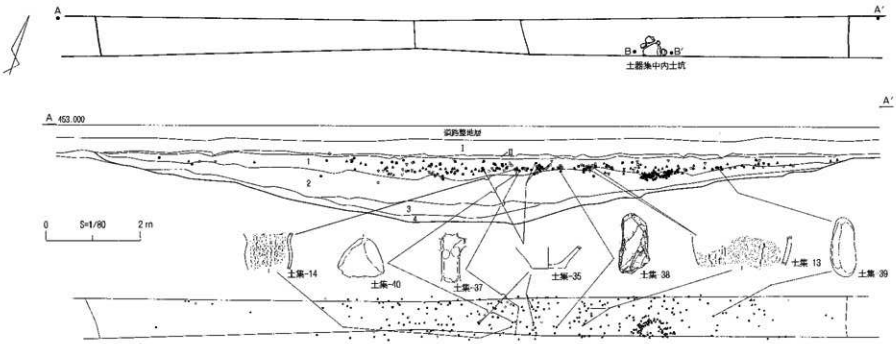


埋甕1　平・断面図 (1/20)

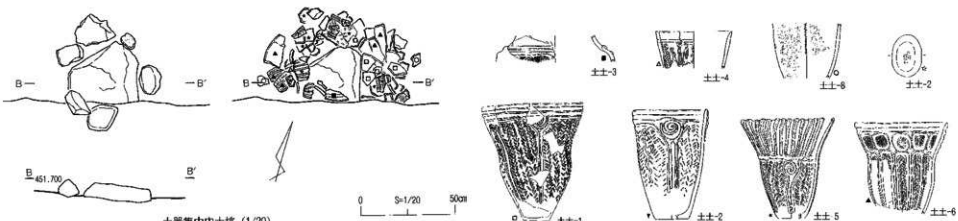


埋甕2　平・断面図 (1/20)　　土A　平・断面図 (1/20)

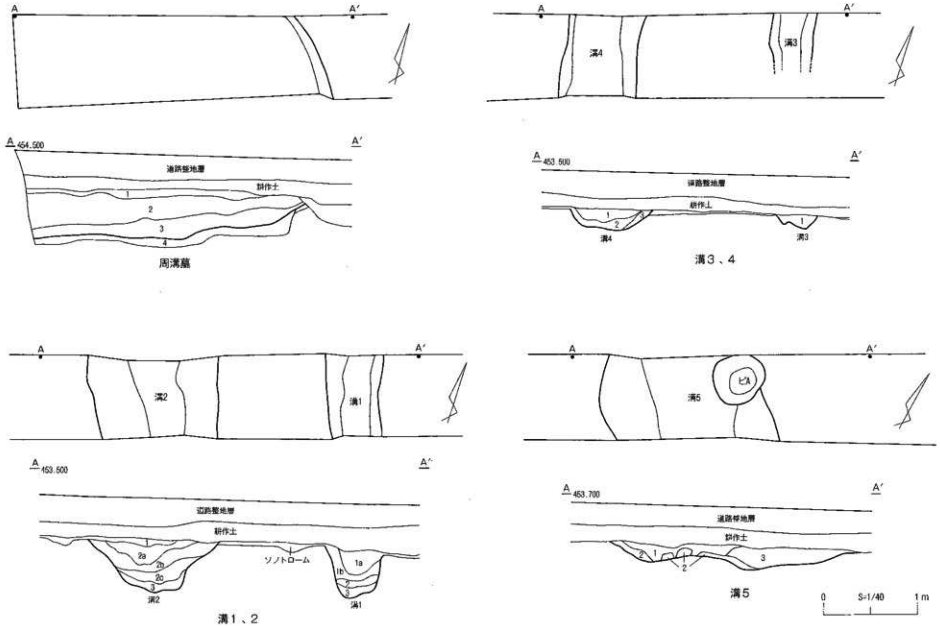
第20図　埋甕・土坑



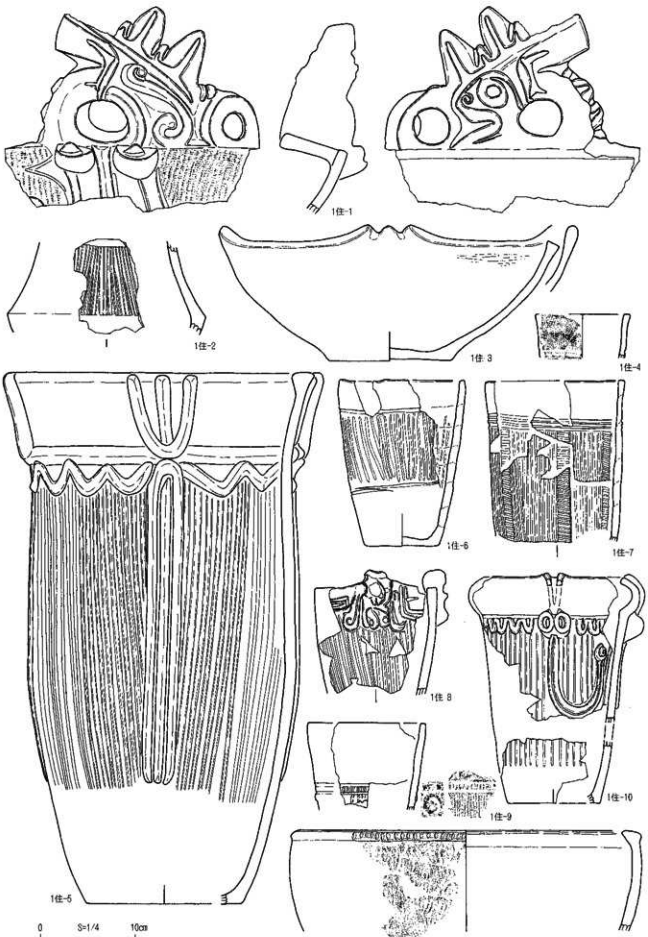
土器集中　平断面図（1/80）遺物出土状況



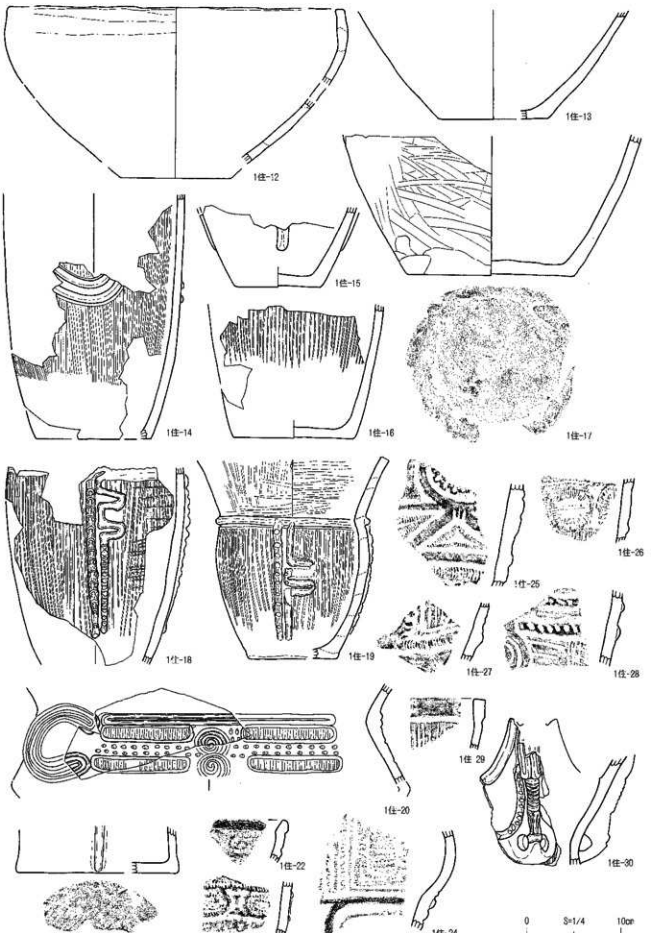
第21図　土器集中・土器集中内土坑



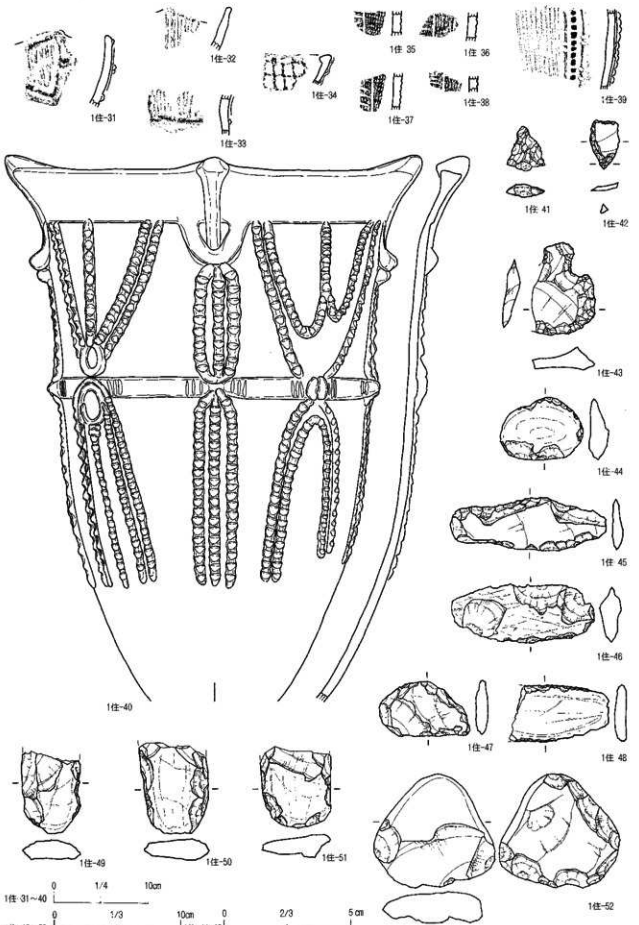
第22図　周溝墓・溝（1/40）



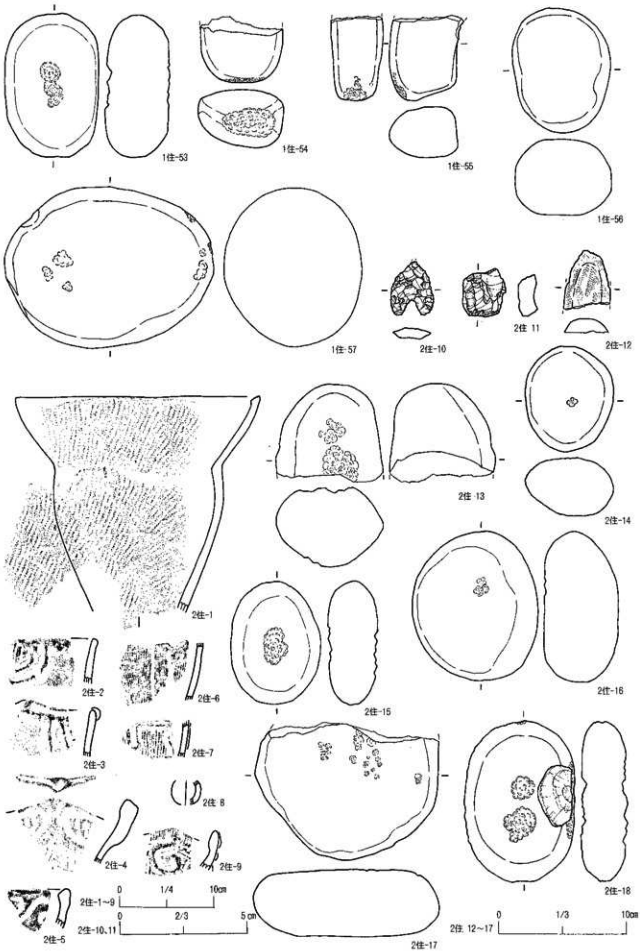
第23図　1号竪穴住居跡出土遺物①（1/4）



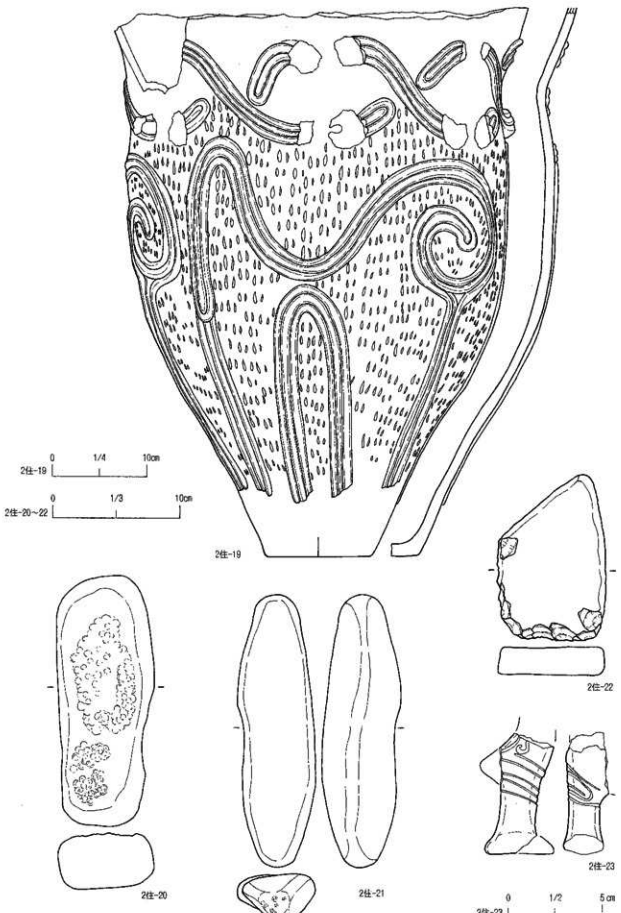
第24図　1号竪穴住居跡出土遺物②（1/4）



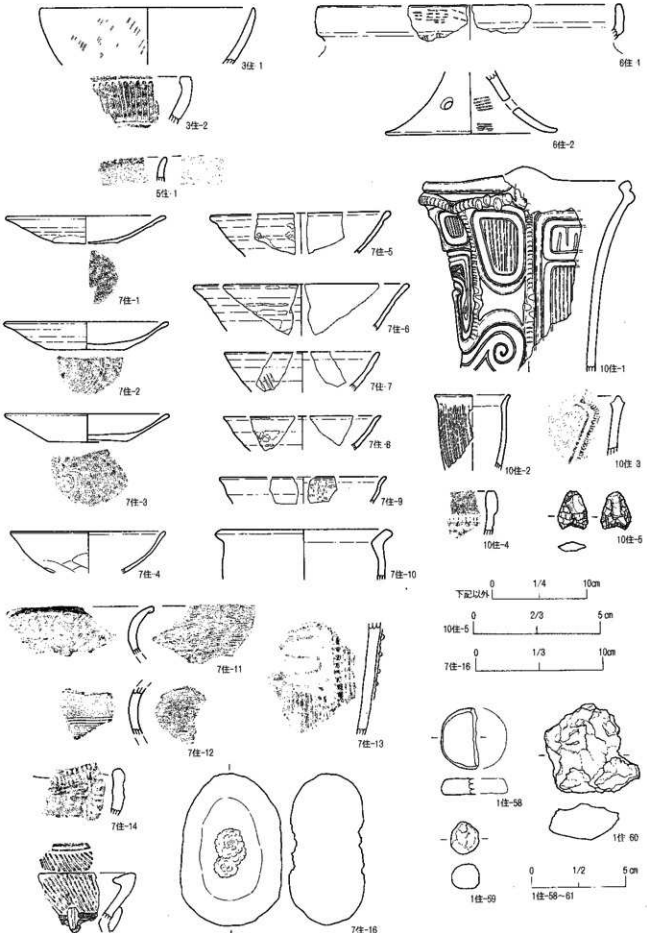
第25図　1号竪穴住居跡出土遺物③



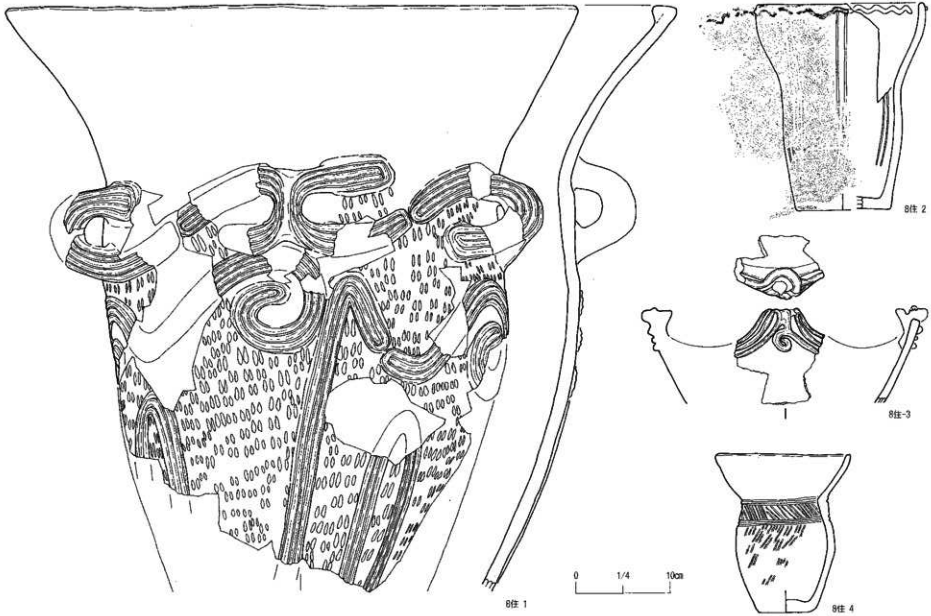
第26図　1号竪穴住居跡出土遺物④　2号竪穴住居跡出土遺物①



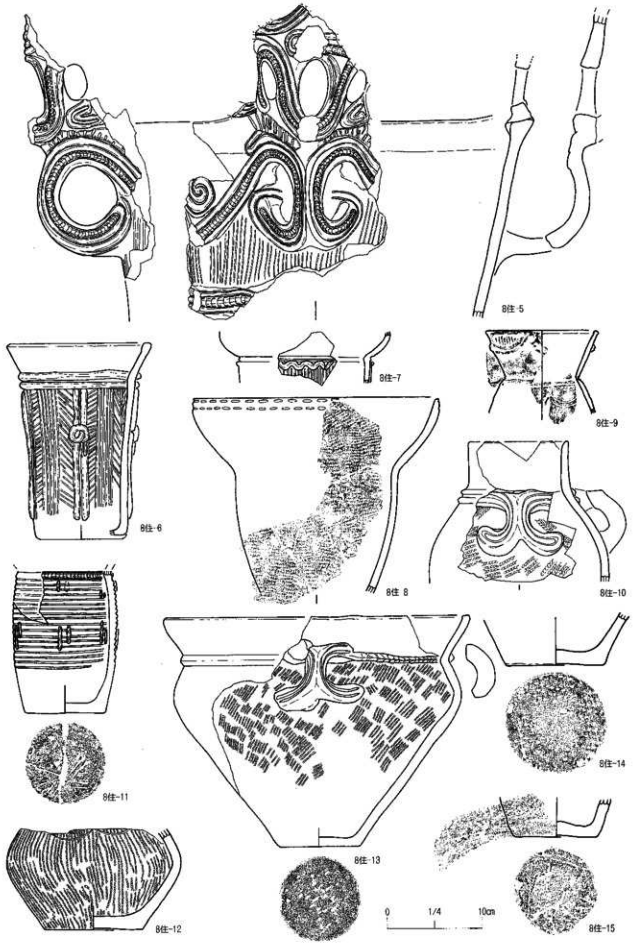
第27図　2号竪穴住居跡出土遺物②



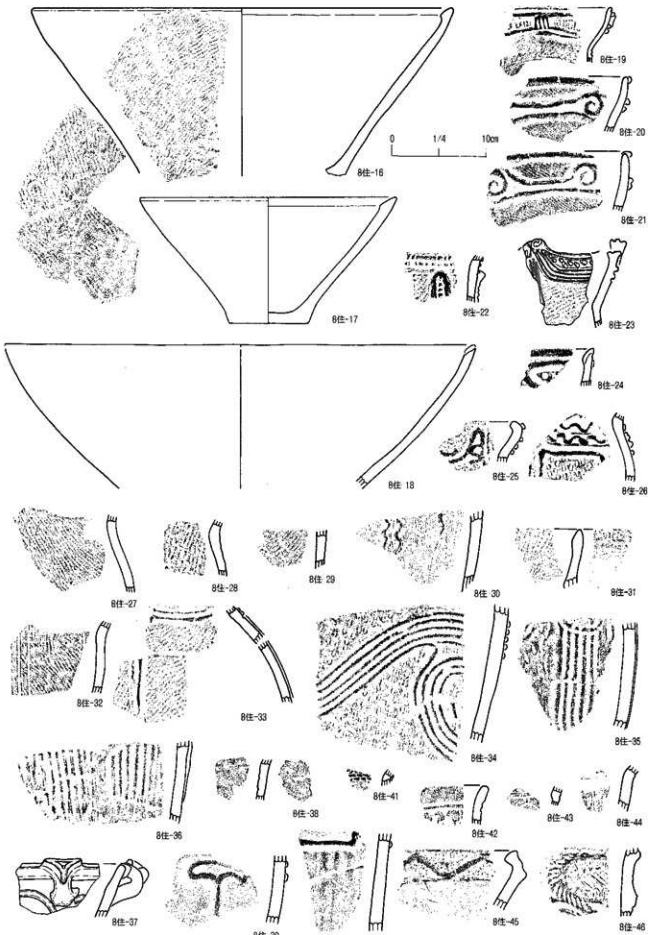
第28図　1・3・5・6・7・10号竪穴住居跡出土遺物



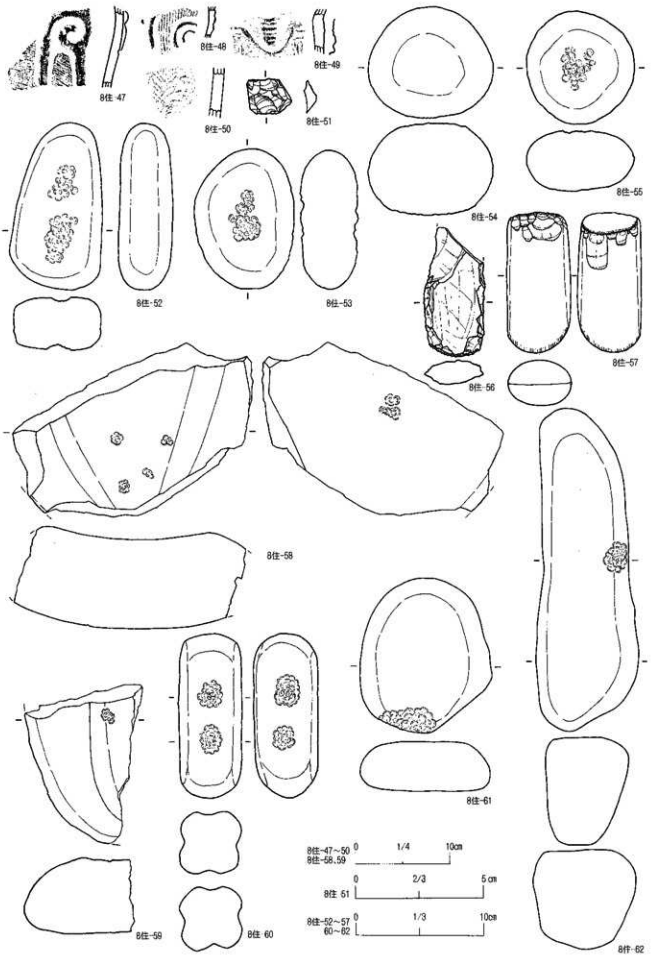
第29図　8号竪穴住居跡出土遺物①



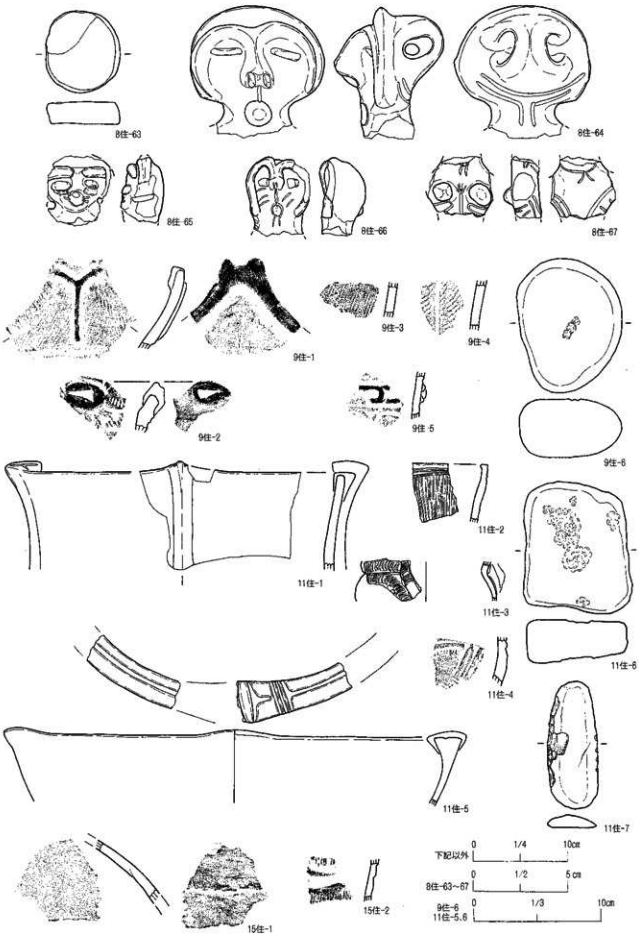
第30図　8号竪穴住居跡出土遺物②



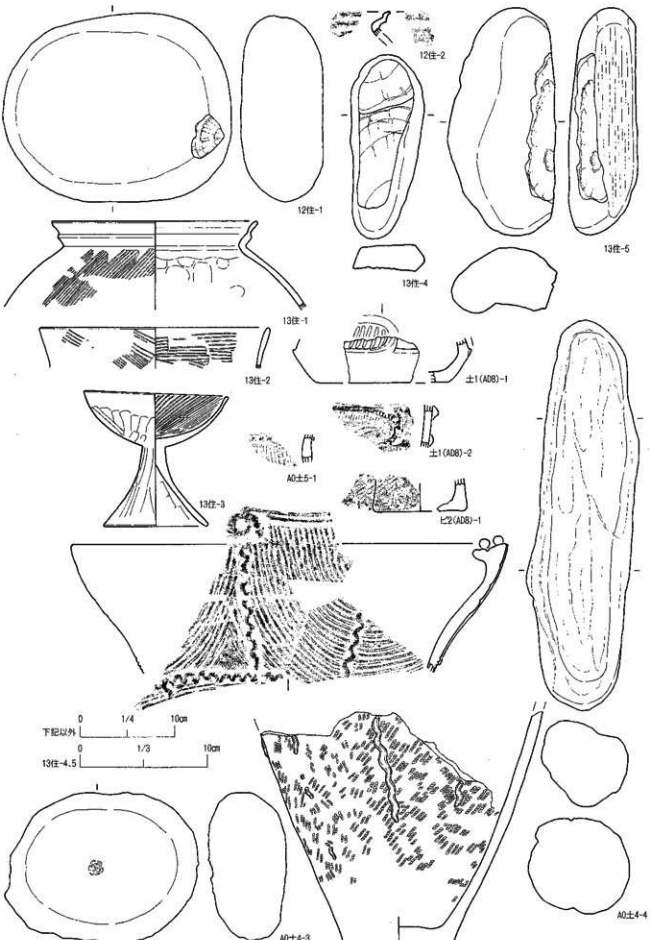
第31図　8号竪穴住居跡出土遺物③



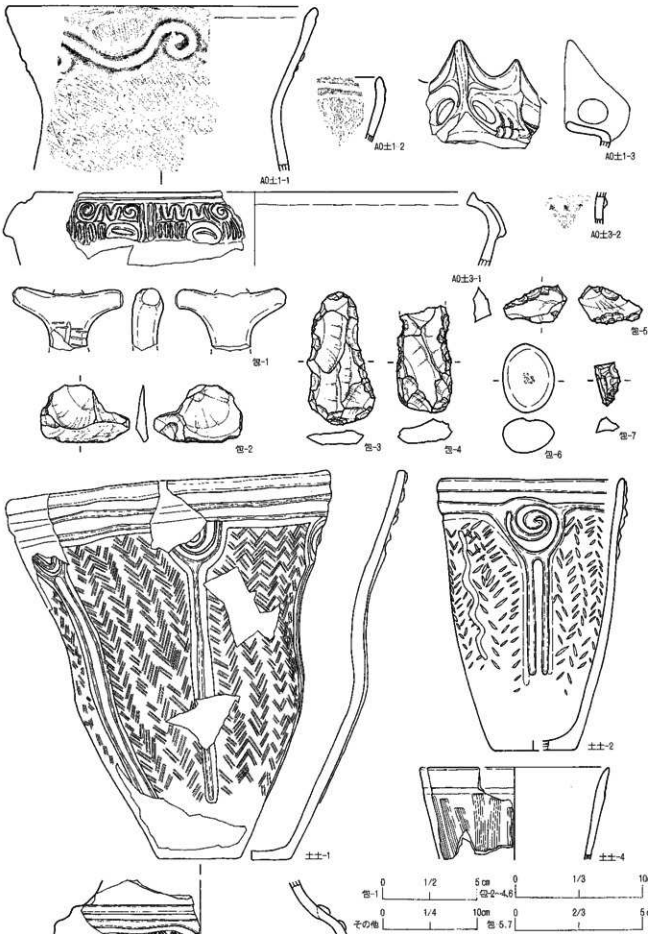
第32図　8号竪穴住居跡出土遺物④



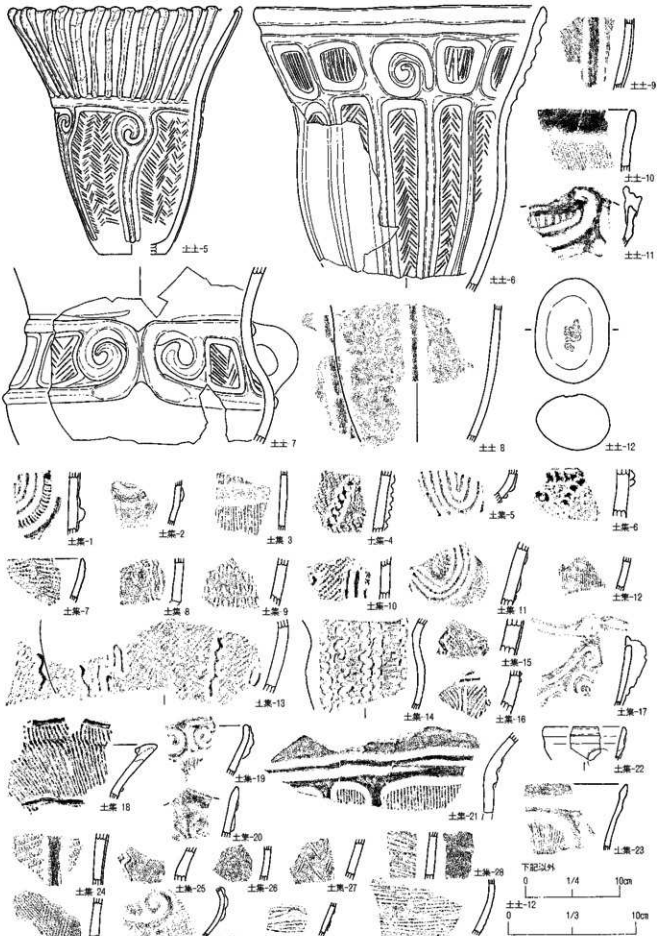
第33図　8号竪穴住居跡出土遺物⑤　9・11・15号竪穴住居跡出土遺物



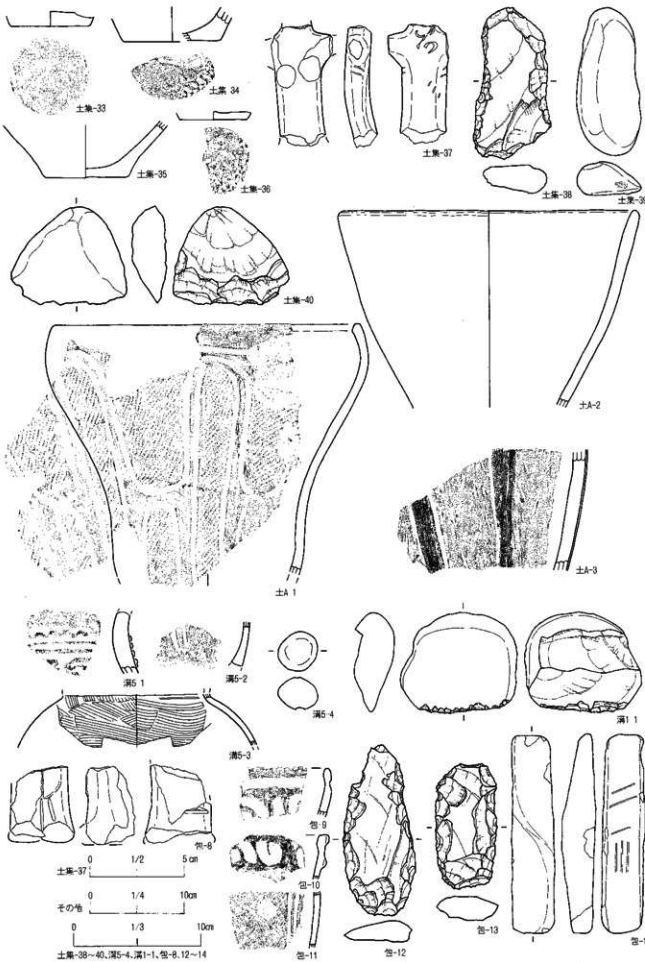
第34図　12・13号竪穴住居跡、土坑・ピット出土遺物



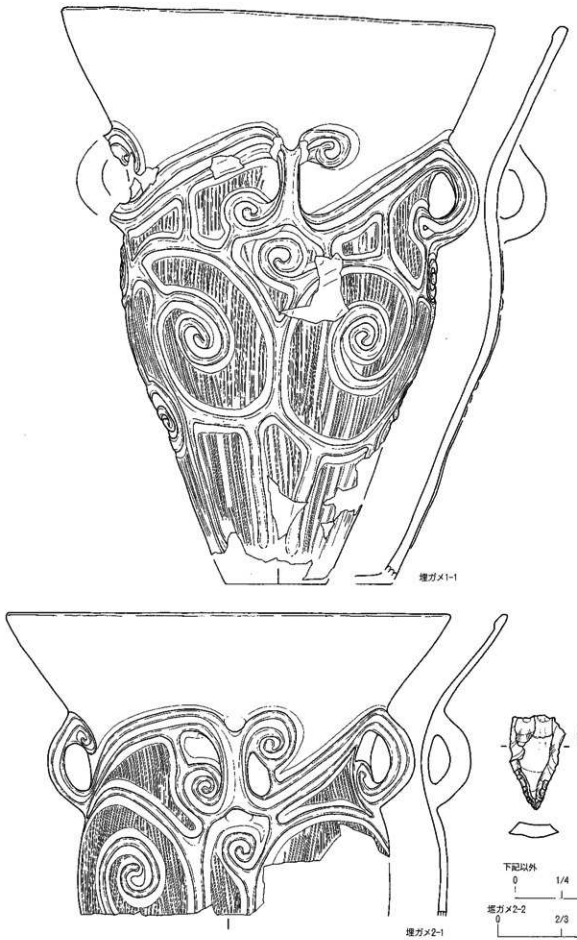
第35図　土坑・包含層①　土器集中内土坑①出土遺物



第36図　土器集中内土坑②　土器集中①出土遺物



第37図　土器集中②　土坑・溝・包含層②出土遺物



第38図　埋甕出土遺物

坂井遺跡遺物観察表

報告No	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・長	口径・横	底径・厚さ	重量	時期	備考
1住-01	JU01-55	深鉢	にぶい黄橙色	暗褐色	黒・白・赤・金色	口縁部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-胴部は多条縄文→隆沈文→沈線(棒状工具)
1住-02	JU01-108	深鉢	黒褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-条線(半竹内皮)
1住-03	JU01-54/67/128/129/131	浅鉢	にぶい褐色	褐色	黒・白・赤	口縁5/6~底部	14.4	36.0	13.0	-	勝坂後半	内外-横撫で
1住-04	JU01-上層	深鉢	橙色~にぶい橙色	橙色~にぶい橙色	黒・白	口縁部片	-	10.0	-		曽利前半	内-撫で/外-撫で、下部に横沈線(半竹内皮)
1住-05	JU01-5/7/24/25/66/75/76/一括	深鉢	にぶい橙色~にぶい褐色	にぶい橙色~にぶい褐色	黒・赤・白	口縁1/2~底部	56.1	32.8	16.3	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁部は撫で→隆線文、胴部は縦条線(半竹内皮)→隆線
1住-06	JU01-11/28/29/30/一括/上層/フク土	深鉢	黒褐色	赤褐色	白・黒・黒光	口縁~底部1/3	17.6	13.2	8.0	-	勝坂後半	内-横磨き→縦沈線文(棒状工具)/外-横磨き→縦・横沈線文(棒状工具)
1住-07	JU01-9/35/一括/上層/フク土、A1-一括	深鉢	暗褐色	にぶい橙色~暗褐色	白・黒光・赤	口縁1/4~胴部	-	14.8	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁部は横撫で、胴部は縦・横沈線文(棒状工具)
1住-08	JU01-上層	深鉢	黒褐色	褐色	白・黒・黒光	口縁部片	-	12.8	-	-	曽利前半	外-隆線→沈線文(竹管)
1住-09	JU01-上層/フク土	深鉢	暗褐色	暗褐色	金色・白	口縁部1/4~胴上部	-	12.5	-		曽利前半	外-口縁部は無文、胴部は沈線文→刻み
1住-10	JU01-110/118/下層/床直/フク土/上層/一括	深鉢	暗褐色		白・黒	口縁1/3~胴部	-	15.0	9.8	-	曽利前半	外-沈線(半竹内皮)→粘土紐(波状)・隆線文
1住-11	JU01-57	深鉢	にぶい赤褐色~暗赤褐色	暗赤褐色~明褐色	白・黒・赤	口縁部片	-	37.1	-	-	勝坂後半	内-撫で/外-口縁部刻み、単節RL縄文
1住-12	JU01-56/95/96/105/124/125/上層/下層/床直、JU02一括	浅鉢	黒褐色	赤褐色~黒褐色	白・黒光・黒・赤	口縁1/5~胴部片	-	35.4	-	-	曽利前半	内外-横撫で
1住-13	JU01-92/102/上層/一括	浅鉢	褐色	黄褐色	白・赤・黒	胴部~底部1/3	-	-	11.5	-	曽利後半	内外-撫で
1住-14	JU01-50/58/99/100/101/上層/下層/床直/一括	深鉢	暗赤褐色	赤褐色	赤・黒・白	胴部1/2	-	-	12.2	-	曽利前半	内-横撫で/外-縦条線→隆線文
1住-15	JU01-60	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・黒・赤	胴下部~底部(完形)	-	-	8.8		曽利前半	内-横撫で/外-横撫で→縦磨き→縦隆線(4ヶ所)
1住-16	JU01-15	深鉢	灰黄褐色	にぶい赤褐色	白・黒・黒光	胴下部~底部(完形)	-	-	12.6	-	曽利前半	内-横撫で/外-縦条線(半竹内皮)
1住-17	JU01-16	深鉢	橙色	橙色	白・黒	胴下部~底部7/8	-		17.8	-	曽利後半	内外-撫で
1住-18	JU01-13	深鉢	黒褐色	明褐色	白・黒・赤・黒光・金色	胴部1/3	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-縦条線(半竹内皮)→横沈線→粘土紐貼付後刺突(半竹内皮)・刻み
1住-19	JU01-47/上層/フク土/床直	深鉢	にぶい褐色	橙色	白・赤・金色・黒光	胴部1/2	-	-	9.4	-	曽利前半	内-口縁部は横磨き、胴部は上半横撫でで下半縦撫で/外-撫で→縦沈線(棒状工具)→粘土紐貼付(刻みあり)
1住-20	JU01-12/20/44/88/フク土/下層	深鉢	灰褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	外-隆線→竹管による沈線文→刺突文
1住-21	JU01-68	深鉢	赤褐色~褐色	赤褐色	白・赤・黒・金色・黒光	底部片	-	-	16.6	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-横撫で→隆線、底部に撫で痕あり
1住-22	JU01-フク土	深鉢	にぶい褐色	灰黄褐色	白	口縁部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-撫で/外-隆線文→連続押引き文
1住-23	JU01-上層	深鉢	黒褐色	橙色	黒・白	胴部片	-	-	-	-	勝坂前半	内-撫で/外-撫で→隆線文(楕円)→三角押し文
1住-24	JU01-2	深鉢	にぶい黄褐色	黄褐色	白・金色	胴部片	-	-	-		勝坂後半	内-撫で/外-隆線文→半竹による刺突文・連続押引き文・交互刺突文
1住-25	JU01-1	深鉢	にぶい褐色	褐色~明褐色	白・黒・黒光	胴部片	-		-	-	勝坂後半	内-撫で/外-隆線文→半竹による沈線文・爪形文
1住-26	JU01-26	深鉢	にぶい褐色	暗褐色	黒・白・黒光	底部片	-		-	-	勝坂後半	内-撫で/外-縄文→隆線→角押し文
1住-27	JU01-フク土	深鉢	褐色~にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・赤	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-隆線文→半竹による沈線文・爪形文
1住-28	JU01-フク土	深鉢	橙色	橙色	黒・白	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-撫で/外-沈線文(棒状工具)→隆線(刻みあり)
1住-29	JU01-フク土	深鉢	にぶい褐色	にぶい褐色~褐色	黒・白・黒光・赤	口縁部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-撫で→縦沈線→横沈線
1住-30	JU01-69/床直	深鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	黒・白・赤	口縁部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-隆線上に梯子状粘土紐貼付文・刻み文
1住-31	JU01-120/上層/下層/床直/一括、A0-S04一括	深鉢	褐色	にぶい赤褐色	黒・白	口縁部片		-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-隆線文内に縦条線(半竹内皮)
1住-32						口縁部片	-	-	-	-		
1住-33						胴部片	-	-	-	-		
1住-34	JU01-フク土	深鉢	暗褐色	黒褐色	白・黒・金色	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-粘土紐による格子状文
1住-35	JU01-上層/床直	深鉢	赤褐色	明赤褐色~暗赤褐色	白・黒・乳白・金色	胴部片			-	-	曽利前半	内-撫で/外-刺突文→半竹による縦・横沈線文(梯子状)
1住-36						胴部片	-	-	-	-		
1住-37						底部片	-	-	-	-		
1住-38						胴部片	-	-	-	-		
1住-39	JU01-88	深鉢	黒褐色	明褐色~にぶい褐色	赤・白・黒・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-縦条線(半竹内皮)→梯子状粘土紐の両脇に縦粘土紐(刻みあり)
1住-40	JU01-SD1-11	深鉢	暗褐色	にぶい赤褐色	黒・白・赤	口縁5/8~胴部	-	44.0	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-撫で→隆線文(刻みあり)
1住-41	JU01-下層	石鏃	-	-	黒曜石	刃部欠損	1.8	1.6	0.5	0.9	-	
1住-42	JU01-上層	錐	-	-	黒曜石	-	2.0	1.2	0.2	0.5	-	
1住-43	JU01-上層	石鏃	-	-	チャート	-	3.7	2.5	0.9	7.1	-	

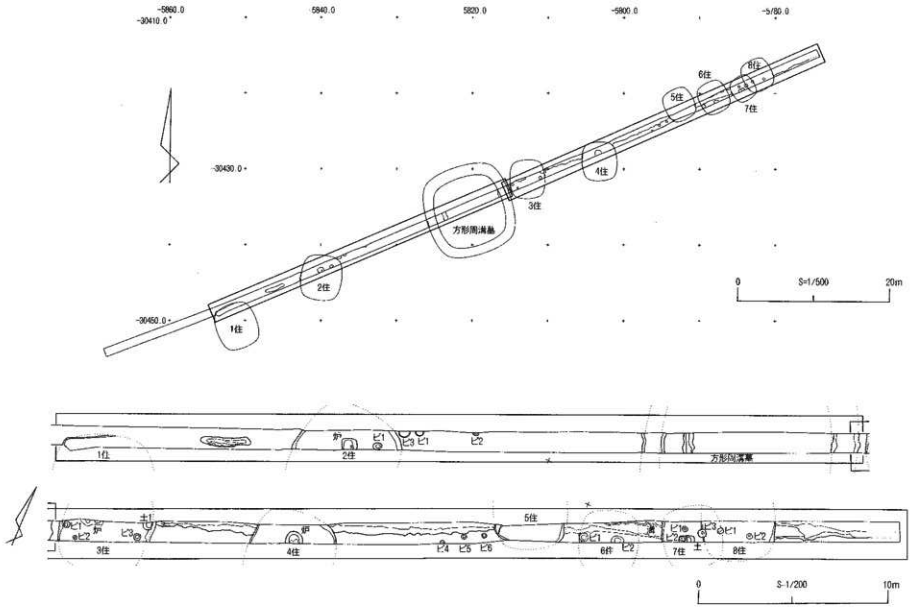
報告No.	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・長	口径・幅	底径・厚さ	重量	時期	備考
1住-44	JU01-下層	礫器	-	-	ホルンフェルス	-	4.9	6.5	1.5	60.0	-	
1住-45	JU01-一括	石匙	-	-	ホルンフェルス	-	4.1	12.2	0.8	47.4	-	
1住-46	JU01-90	横刃	-	-	凝灰岩	-	4.5	11.2	1.6	77.4	-	
1住-47	JU01-上層	横刃	-	-	ホルンフェルス	-	4.3	7.0	0.9	46.7	-	
1住-48	JU01-上層	横刃	-	-	砂岩	-	4.4	7.8	0.9	46.7		
1住-49	JU01-SD1	打斧		-	ホルンフェルス	-	6.5	4.5	1.4	63.6	-	
1住-50	JU01-フク土	打斧	-	-	頁岩	-	7.0	5.0	1.6	42.1	-	
1住-51	JU01-一括	打斧	-	-	砂岩	-	6.0	5.1	1.7	78.1	-	
1住-52	JU01-6	礫器	-	-	ホルンフェルス	-	9.0	9.5	2.4	229.2	-	
1住-53	JU01-83	凹石	-	-	安山岩	-	11.3	7.4	4.4	620.0	-	
1住-54	JU01-フク土	凹石	-	-	安山岩	-	5.2	6.7	4.5	173.6	-	
1住-55	JU01-フク土	敲石	-	-	安山岩	-	6.6	5.3	3.9	258.0	-	
1住-56	JU01-63	磨石	-		安山岩	-	9.9	7.6	6.0	683.0	-	
1住-57	JU01-98	まる石	-	-	安山岩	-	17.0	22.1	14.5	8040.0	-	
2住-01	JU01-上層、JU02-上層、JU08 炉	深鉢	にぶい橙色	橙色～褐灰色	白・乳白・黒・赤・黒光	口縁～胴部3/5	-	25.8	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-櫛文
2住-02	JU02-一括、A1-一括	深鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・赤	口縁部片		-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-撫で→沈線文
2住-03						口縁部片	-	-	-	-		
2住-04	JU02-8/13	深鉢	明褐色～暗褐色	橙色～にぶい褐色	黒・白・黒光・乳白	口縁部片	-				曽利後半	内-撫で/外-肥厚口縁に沈線文・刺突文(棒状工具)、胴部は条線(櫛歯状工具)→沈線文(棒状工具)
2住-05	JU02-一括	深鉢	にぶい黄橙色	明黄褐色	黒・白・金色・乳白	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-肥厚口縁に沈線文(棒状工具)
2住-06	JU02-10	深鉢	赤黒色	明赤褐色	白・黒・乳白・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-縦隆線→縦撫で(棒状工具)→縦条線(櫛歯状工具)
2住-07	JU02-一括	深鉢	暗褐色	褐色～暗褐色	白・黒・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-縦条線(半竹内皮)→隆線文
2住-08	JU02-一括	ミニチュア	黒褐色	にぶい褐色	白・乳白	胴部1/8	-	-	-	-	中期	内外-撫で
2住-09	JU02-一括	深鉢	にぶい赤褐色	にぶい褐色	黒・白・金色・黒光	口縁部片	-	-		-	五領ヶ台	内-撫で/外-沈線文→竹管による刺突文、沈線文あり
2住-10	JU02-14	石鏃	-	-	黒曜石	-	1.3	2.1	1.7	0.5	-	
2住-11	JU02-床下	楔形石器		-	黒曜石		2.1	1.9	1.7	0.8		
2住-12	JU02-下層	磨斧	-	-	黒曜石	磨斧の基部	4.6	3.5	1.1	23.7		
2住-13	JU02-15	凹石	-	-	安山岩	-	7.1	8.3	6.2	390.0	-	
2住-14	JU02-一括	磨石	-	-	安山岩	-	8.3	6.9	4.5	399.4	-	
2住-15	JU02-上層	凹石	-	-	安山岩	-	9.6	7.1	4.0	341.9	-	
2住-16	JU02-炉	凹石	-	-	安山岩	-	11.7	9.9	5.8	1088.2	-	
2住-17	JU02-上層	台石	-	-	安山岩	-	14.5	19.3	7.2	3140.0	-	
2住-18	JU02-上層	凹石	-	-	安山岩		12.5	8.7	3.6	592.2		
2住-19	JU02-SU1	深鉢	橙色	赤褐色	白・乳白・黒・赤	頸部以下ほぼ完形		-	11.2		曽利前半	内-横撫で/外-隆帯文上を半竹内皮で隆線状撫で→雨だれ列点文
2住-20	JU02-SU1-2	叩き石	-		砂岩	-	19.7	7.6	4.4	1320.0	-	
2住-21	JU02-SU1-3	叩き石	-	-	砂岩	-	21.4	5.6	3.8	714.0	-	
2住-22	JU02-SU1-1	蓋石	-	-	砂岩	-	12.9	8.4	2.2	467.5	-	
2住-23	JU01-65	土偶	-	にぶい褐色	金色・白・黒	脚部片	-	-	-	-	曽利	外-細かい沈線文あり
3住-01	JU03-床直	鉢	にぶい黄橙色	浅黄橙色	白・金色・黒・赤・黒光	口縁～胴部片	-	16.8	-	-	古墳	内-撫で/外-刷毛後撫で磨き
3住-02	JU03-PT2	深鉢	褐色	黒褐色	白・黒光・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-沈線文(半竹内皮)
5住-01	JU5-一括	甕	明褐色	橙色	白・黒・赤・黒光	口縁部片	-	-	-	-	古墳	内-横刷毛目/外-縦刷毛目
6住-01	JU06-一括	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・赤	口縁部1/16	-	23.8	-	-	古墳	内-横撫で/外-口縁部に横刷毛目後撫で、胴部は縦刷毛目
6住-02	JU06-一括	高坏	橙色	橙色	赤・金色・白	脚部1/4	-	-	13.3	-	古墳	内-横刷毛目痕/外-横撫で/内外-摩滅がはげしくはっきりしない
7住-01	JU07-5/7	皿	にぶい赤褐色	赤褐色	白・赤・黒	口縁～底部1/4	2.2	12.4	5.0	-	平安	外-体下部はヘラ削り、底部は回転糸切り痕
7住-02	JU07-6/上層	皿	橙色	橙色	赤・白・黒・金色	口縁～底部1/4	2.2	13.2	6.2	-	平安	外-底部は回転糸切り痕
7住-03	JU07-2	皿	橙色	橙色	赤・白・黒	口縁～底部1/4	2.2	12.6	6.3	-	平安	外-底部は回転糸切り痕
7住-04	JU07-1	坏	黄橙色	橙色	白・赤・黒	口縁～体部片	-	12.0	-	-	平安	外-体下部はヘラ削り
7住-05	JU07-一括	坏	明赤褐色	明赤褐色	赤・金色・白	口縁～体部片		13.9		-	平安	外-体下部はヘラ削り
7住-06	JU07-一括	坏	橙色	橙色	金色・赤・白	口縁～体部片	-	16.7	-	-	平安	外-ヘラ削り
7住-07	JU07-一括	坏	黒褐色	黒褐色	金色・黒光・白・赤	口縁～体部片		12.1	-	-	平安	外-体下部は削りあり
7住-08	JU07-3	坏	にぶい橙色	にぶい橙色	金色・白・赤・乳白	口縁～体部片	-	12.3	-	-	平安	外-ヘラ削り
7住-09	JU08-一括	坏	黒色	黒褐色	白・金色・赤	口縁～体部片		13.0	-		平安	内-磨き、内黒土器
7住-10	JU04-一括	壺	黒褐色	黒褐色	白・赤・黒	口縁部片	-	13.0	-	-	平安	内外-撫で
7住-11	JU07-一括	甕	橙色～にぶい褐色	褐色	赤・白・黒	口縁部片	-	-	-	-	古墳	内-横刷毛目/外-縦刷毛目
7住-12	JU07-一括	甕	赤色	赤色～にぶい赤褐色	白・黒	頸部片	-	-	-	-	古墳	内外-横刷毛目、赤彩
7住-13	JU07-上層	深鉢	にぶい褐色	橙色～にぶい橙色	白・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-縦沈線(半竹内皮)→隆線(刻みあり)
7住-14	JU04-上層	深鉢	明赤褐色	にぶい赤褐色～明赤褐色	白・黒・乳白	口縁部片	-	-	-	-	勝坂前半	内-撫で/外-竹管による押し引き
7住-15	JU04-上層	深鉢	暗赤褐色	明赤褐色～暗赤褐色	白・黒・黒光・赤	口縁部1/8	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-半竹内皮による斜沈線、頸部は横粘土紐上に押し型文、つまみあり

報告No.	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・縦	口径・横	底径・厚さ	重量	時期	備考
7住-16	JU04-上層	凹石	-	-	安山岩	-	11.9	8.0	6.0	771.1	-	
10住-1	JU10-S11	深鉢	灰褐色	褐灰色	白・黒・赤	口縁1/2~胴部	-	-		-	勝坂後半	外-パネル文
10住-2	JU10-1	小鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	白・乳白・黒・赤	口縁1/8~胴部	-	8.0	-		曽利後半	外-縦条線(半竹内皮)
10住-3	JU10-2	深鉢	灰褐色	明赤褐色	白・黒・赤・黒光	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-パネル文
10住-4	JU10-一括	深鉢	明褐色	褐色	白・赤・黒・黒光	口縁部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-肥厚口縁に押し引き文・沈線文
10住-5	JU10-5	石鏃			黒曜石		1.5	1.2	0.4	0.7	-	
1住-58	JU01-上層	土製円盤	表-橙色	表-橙色	黒・白・金色・赤	1/2残	3.2	1.9	0.9	6.8	縄文	
1住-59	JU01-S01	土玉		橙色	白・赤・金色		1.8	1.5	1.3	3.1	縄文	
1住-60	JU01-上層	焼成粘土塊		にぶい黄橙色(一部赤褐色)	白・金色・赤・黒		4.7	3.7	1.9	35.1	縄文	
8住-01	JU08-41/50~126までとびとび/上層/炉上/一括、他	深鉢	明褐色	明褐色	金色・白・黒・赤	口縁~胴部1/2	-	60.5	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁無文(横撫で)、胴部は隆帯文上を半竹内皮による隆線状撫で→雨だれ列点文
8住-02	JU08-32/116/129/一括	深鉢	にぶい黄褐色	褐色~黒色	赤・白・乳白・黒・赤	胴部1/2	21.8	17.5	5.0	-	曽利前半	内-横撫で/外-縄文→七ヶ所縦沈線(半竹内皮)→口縁に粘土紐による波状文
8住-03	JU08-炉上	深鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・乳白・赤	口縁部片	-	30.0	-	-	曽利前半	外-波状口縁上に隆線文→撫で(竹管)
8住-04	JU08-162	深鉢	灰褐色	にぶい褐色	黒・白・赤・黒光	ほぼ完形	16.5	14.3	6.4	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁無文(横撫で)、頸部は沈線文(半竹内皮)、胴部は縄文(熱を受けて脆い)
8住-05	JU08-38/39	深鉢	にぶい褐色~明赤褐色~灰褐色	にぶい褐色~明赤褐色~灰褐色	白・透明・乳白・黒光・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-隆帯上は半竹内皮による連続押し引き文・交互刺突文あり、胴部は縦条線(半竹内皮)
8住-06	JU08-炉直上/炉	深鉢	にぶい褐色	にぶい橙色	白・黒・赤	口縁1/2~胴部	20.6	15.2	9.6	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁無文、胴部に沈線文(半竹内皮)→粘土紐
8住-07	JU08-98	深鉢	褐灰色	にぶい黄褐色	乳白・白・黒・黒光・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-上部は無文、頸部は横沈線、下部は縦条線(半竹内皮)→粘土紐による波状文
8住-08	JU08-炉直上/炉上/上層	深鉢	黒褐色	赤褐色	白・黒・赤	口縁~胴部1/8	-	26.0	-		曽利前半	外-縄文→口縁は刺突文(半竹外皮)
8住-09	JU08-9/35/上層/フクナ/一括、A1一括	深鉢	にぶい赤褐色~暗赤褐色	にぶい赤褐色~暗赤褐色	白・黒・乳白・黒光	口縁~胴部片		12.0	-	-	曽利前半	内-撫で/外-口縁は隆線による半円文内に沈線文、胴部は沈線文(半竹内皮)
8住-10	JU08-107/108/109/111/121/133/一括	鉢	橙色	橙色~にぶい橙色	白・黒・赤・黒光	口縁1/2~胴部	-	11.0	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁無文、胴部は縄文→把手は隆線文(半竹内皮)
8住-11	JU08-一括	深鉢	黒色	にぶい赤褐色	白・黒・赤	胴~底部	-	-	8.4	-	曽利前半	内-横撫で/外-胴部は横条線(半竹内皮)→縦粘土紐(5ヶ所)、頸部は押し引き文、底部は沈線(半竹内皮)
8住-12	JU08-99/128	鉢	にぶい褐色	灰褐色	白・黒・金色	胴~底部(完形)	-	-	10.4	-	曽利前半	内-横撫で/外-撚り糸→沈線文(半竹内皮)
8住-13	JU08-163	深鉢	にぶい黄橙色	灰黄褐色	白・黒・赤・黒光	口縁~底部(完形)	24.2	32.2	8.6	-	曽利前半	内-撫で/外-口縁無文(横撫で)、頸部は隆線→指でつまむ、胴部はLR縄文、把手あり、底部は網代痕
8住-14	JU08-炉上	深鉢	赤褐色	赤褐色	白・黒光・金色	胴下部~底部(完形)	-	-	10.0		中期後半	内-撫で/外-縦撫で、底部は網代痕
8住-15	JU08-炉直上	深鉢	にぶい褐色	にぶい黄褐色	白・金色・赤	胴下部~底部(完形)	-	-	8.5	-	中期後半	内-撫で/外-撫で→縄文、底部は木葉痕
8住-16	JU08-29/40/上層	浅鉢	灰褐色	明褐色	白・黒・黒光・赤	口縁~胴部片	-	44.0		-	曽利前半	内-撫で/外-斜め縄文
8住-17	JU08-142/143/炉内一括	浅鉢	明赤褐色	赤褐色	白・黒・乳白・赤	口縁~底部(完形)	13.3	27.2	8.2	-	曽利後半	内外-撫で
8住-18	JU08-7/42/43/138/139	浅鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・金色	胴部片	-	-	-		曽利後半	内外-撫で
8住-19	JU08-33	深鉢(小型)	明赤褐色	明赤褐色~にぶい橙色	白・乳白・黒光・黒	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-口縁部は隆線文内に沈線文、頸部付近は縄文→沈線文(半竹内皮)
8住-20	JU08-122	深鉢	明赤褐色	にぶい橙色	白・黒・赤・黒光	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-単節RL縄文→隆線→縦撫で(棒状工具)
8住-21	JU08-一括	深鉢	にぶい橙色	にぶい褐色	白・黒・赤・黒光	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-単節RL縄文→隆線→縦撫で(棒状工具)
8住-22	JU08-58	深鉢	にぶい黄褐色	明赤褐色	白・乳白・黒光・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-横撫で/外-縄文→隆帯上に半竹内皮による隆線・押し引き文
8住-23	JU08-84	深鉢	黒褐色	黄褐色	白・乳白・黒・黒光・赤	口縁部片	-	-		-	曽利前半	内-煤付着/外-縄文、突起口縁部上に隆線(半竹内皮)→刺突文
8住-24	JU08-一括	深鉢	にぶい橙色	にぶい褐色	白・乳白・黒光・黒・赤	口縁部片			-	-	曽利後半	内-横撫で/外-隆線→沈線文(棒状工具)
8住-25	JU08-一括	深鉢	浅黄橙色	浅黄橙色	白・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	外-粘土紐貼付文
8住-26	JU08-上層	深鉢	にぶい黄褐色	灰黄褐色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-		曽利前半	内-横撫で/外-隆線→波状粘土紐→雨だれ列点文
8住-27	JU08-一括	深鉢	灰褐色	にぶい褐色	黒・白・赤	胴部片	-	-		-	曽利前半	内-横撫で/外-撚り糸
8住-28	JU08-上層	深鉢	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤・黒光	胴部片	-	-		-	曽利後半	外-縄文
8住-29	JU08-一括	深鉢	にぶい黄橙色	明褐色	白・黒・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	外-縄文→沈線(蛇行垂下)
8住-30	JU08-59	深鉢	褐色	明褐色	白・乳白・黒・黒光・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	外-条線→粘土紐(蛇行垂下)
8住-31	JU08-上層	深鉢	褐色	橙色	白・乳白・黒・黒光・赤	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-条線(半竹内皮)
8住-32	JU08-炉内	深鉢	にぶい橙色	黄橙色	白・赤・黒・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	外-縄文→沈線(半竹内皮)
8住-33	JU08-5/9	深鉢	明赤褐色	灰褐色	白・黒光・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-縄文→隆線→縦撫で(半竹内皮)
8住-34	JU08-113/131	深鉢	橙色	褐灰色	白・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-雨垂れ列点文→隆帯文上を半竹内皮による隆線状撫で
8住-35	JU08-66/104	深鉢	橙色	にぶい黄橙色	白・黒	胴部片	-	-		-	曽利前半	内-撫で/外-隆帯文上を半竹内皮による隆線状撫で、雨垂れ列点文

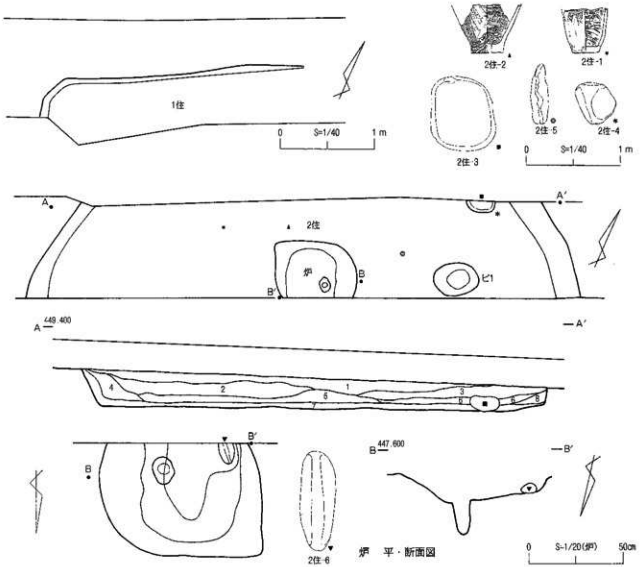
報告No	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・長	口径・幅	底径・厚さ	重量	時期	備考
8住-36	JU08-67/71/72	深鉢	にぶい褐色	橙色～にぶい橙色	黒・乳白・白・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-半竹内皮による条線文
8住-37	JU08-炉上	深鉢	褐色～灰褐色	褐色～灰褐色	金色・白・乳白・黒・黒光	口縁部片	-	-	-	-	勝坂前半	内-横撫で/外-口縁に把手あり、地文は無地→隆線文
8住-38	JU08-一括	深鉢	にぶい褐色	褐色～黒褐色	乳白・白・透明・赤	胴部片	-	-	-		早期	内外-無文(繊維入り)、凸凹して粗い
8住-39	JU08-上層	深鉢	にぶい黄橙色	灰黄褐色	白・乳白・黒・黒光	胴部片	-	-	-	-	勝坂前半	内-横撫で/外-地文は無地→隆線文
8住-40	JU08-115	深鉢	橙色	灰黄褐色	白・乳白・黒・金色	胴部片	-	-	-	-	勝坂前半	内-横撫で/外-地文は無地→隆線文
8住-41	JU08-一括	深鉢	褐色	褐色	白・乳白・黒	胴部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-細い半竹内皮による沈線→細い隆線上に押し引き
8住-42	JU08-一括	深鉢	黒褐色	にぶい黄褐色	白・黒	口縁部片	-	-		-	五領ヶ台	内-横撫で/外-沈線(棒状工具)→刻み文
8住-43	JU08-炉直上	深鉢	にぶい褐色	褐色	金色・黒・白	胴部片		-			五領ヶ台	内-横撫で/外-縄文→沈線文(棒状工具)→刻み文
8住-44	JU08-一括	深鉢	明褐色	明褐色	金色・白・黒・乳白	胴部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-縄文→細い沈線(棒状工具)→撫で(指)
8住-45	JU08-94/103	深鉢	褐灰色	褐灰色	白・黒光・黒	口縁部片	-	-	-	-	勝坂前半	外-口縁は隆線文(三角)内を押し引き
8住-46	JU08-64	深鉢	にぶい黄褐色	にぶい橙色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-パネル文
8住-47	JU08-一括/上層	深鉢	にぶい黄橙色～灰黄褐色	にぶい黄橙色～灰黄褐色	白・赤・黒光・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-斜め条線(半竹内皮)→隆線文→沈線(竹管)
8住-48	JU08-上層	深鉢	にぶい黄褐色	黒褐色	白・乳白・黒	胴部片		-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-縦条線→隆線→撫で(竹管)
8住-49	JU08-一括	深鉢	にぶい褐色	灰褐色	白・黒・赤・黒光	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-隆線・粘土紐貼付文→下部は縦沈線
8住-50	JU08-上層	深鉢	暗褐色	明赤褐色	白・透明・赤・黒光・黒	胴部片	-	-	-		曽利後半	内-横撫で/外-ハの字文(竹管)
8住-51	JU08-PT1	鏃形石器			黒曜石	-	1.4	1.8	0.5	1.1		
8住-52	JU08-床直	凹石	-	-	安山岩	-	13.1	7.0	4.0	562.0		
8住-53	JU08-37	凹石	-	-	安山岩	-	11.0	7.8	4.5	540.0	-	
8住-54	JU08-34	磨石	-	-	安山岩	-	8.7	9.8	7.2	800.0	-	
8住-55	JU08-79	磨石	-	-	安山岩	-	8.9	8.5	4.7	462.0	-	
8住-56	JU08-一括	打斧	-	-	凝灰岩	-	10.0	4.6	1.8	119.5	-	
8住-57	JU08-159	磨斧	-	-	凝灰岩	-	11.0	5.0	3.5	348.5	-	
8住-58	JU08-上層	石皿			安山岩	-	16.0	24.5	9.4	5930.0	-	
8住-59	JU08-81	石皿	-	-	安山岩	-	16.0	11.5	8.0	1760.0		
8住-60	JU08-炉直上	凹石	-	-	安山岩	-	12.9	5.0	4.9	353.6	-	
8住-61	JU08-160	磨石	-	-	安山岩	-	12.0	10.3	3.9	378.7	-	
8住-62	JU08-161	台石	-	-	安山岩	-	25.4	8.0	8.5	2830.0	-	
8住-63	JU08-上層	土製円盤	裏-灰黄褐色	表-にぶい黄褐色	金色・白・黒光・赤・乳白・黒	一部欠損	4.3	4.0	1.2	23.7	縄文	
8住-64	JU08-158	土偶	-	にぶい褐色～黒褐色	白・乳白・黒・黒光	頭部片		7.0	5.8	132.5	曽利	後頭部～首にかけて細かい沈線文
8住-65	JU08-PT1	土偶	-	褐色～灰褐色	白・乳白・黒	頭部片		-	2.2	21.2	曽利	顔面に細かい沈線文
8住-66	JU08-上層	土偶	-	明赤褐色	白・乳白・黒・黒光	頭部片		-	2.4	29.5	曽利	顔面に細かい沈線文
8住-67	JU08-一括	土偶	-	橙色	白・乳白・黒・赤	胴部片		-	1.9	18.4	曽利	細かい沈線文あり
9住-1	JU09-一括	深鉢	赤褐色	にぶい赤褐色	金色・白・黒	口縁部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-波状口縁、口唇部は沈線文(半竹内皮)あり、縄文→隆線文
9住-2	JU09-一括	深鉢	明赤褐色	褐色	金色・白・黒	口縁部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-口唇の突起部に三角の刻み文、縄文→沈線文・刻み文
9住-3	JU09-一括	深鉢	にぶい褐色	赤褐色	金色・乳白・透明・白・黒	胴部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-縄文→並行沈線垂下
9住-4	JU09-一括	深鉢	にぶい褐色	暗褐色	金色・白・赤・黒	胴部片	-	-	-	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-縄文→縦沈線(棒状工具)
9住-5	JU09-一括	深鉢	にぶい褐色	褐色	金色・乳白・白・黒	胴部片	-	-		-	五領ヶ台	内-横撫で/外-縄文→隆線文→沈線文(棒状工具)・刻み文
9住-6	JU09-一括	磨石	-	-	安山岩	-	10.5	8.0	4.6	598.8	-	
11住-1	JU11-SD1	深鉢	にぶい黄橙色～褐灰色	にぶい黄橙色～褐灰色	白・乳白・黒	口縁部1/4	-	36.6	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-口唇部に三叉文、口縁部は無文→縦隆線(つまみ撫で)
11住-2	JU11-SD1	小鉢	灰褐色	にぶい橙色	白・赤・黒	口縁部片	-	8.0	-	-	勝坂後半	外-半竹内皮による横沈線→縦条線
11住-3	JU11-SD1	鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・黒・金色	胴部片		-	-	-	勝坂後半	外-隆線→連続刺突文(半竹内皮)
11住-4	JU11-一括	深鉢	橙色	明褐色～褐色	金色・白・乳白・黒	胴部片		-	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-沈線文→刻み
11住-5	JU11-SD1	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白	口縁部1/8	-	48.0	-	-	勝坂後半	内-撫で/外-口唇部に沈線文(棒状工具)
11住-6	JU11-SD1	凹石	-	-	安山岩	-	10.0	8.0	3.5	351.8	-	
11住-7	JU11-SD1	横刃	-	-	頁岩	-	10.0	3.8	1.0	59.7	-	
15住-1	JU15-床下	台付甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・乳白・黒光・黒・金色・赤	胴部片	-	-	-	-	古墳	内-横刷毛目、輪積み痕あり/外-斜め刷毛目
15住-2	JU15-床下	深鉢	にぶい黄褐色～暗褐色	にぶい黄褐色～暗褐色	白・赤・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-隆線→撫で(指)→半竹内皮による縦条線
12住-1	JU12-炉	枕石	-	-	安山岩	-	19.7	24.0	8.6	7360.0	-	
12住-2	JU12-一括	S字甕	黄橙色	にぶい黄褐色	乳白・白・金色・黒	口縁部片	-	-	-	-	古墳	内-横刷毛目/外-縦刷毛目
13住-1	JU13-フク土	S字甕	褐色	にぶい褐色	白・金色・赤・黒	口縁部片	-	16.0	-	-	古墳	内-横撫で、胴部に指頭痕/外-胴部は斜め刷毛目

報告No	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・長	口径・幅	底径・厚さ	重量	時期	備考
13住-2	JU13-フタ土	甕	橙色	橙色	白・赤・金色・黒	口縁部片	-	18.0	-	-	古墳	内外-横刷毛目
13住-3	JU13-SD1	高坏	橙色	橙色	白・赤・黒・金色	3/4(口縁～脚部)	10.5	11.2	8.0		古墳	内-口縁～みこみ部放射状暗文/外 体下半～脚部ヘラ削り
13住-4	JU13-一括	叩き石	-	-	安山岩	-	14.5	5.7	2.0	275.9	-	
13住-5	JU13-炉-1	磨石	-	-	安山岩	-	18.0	8.3	4.5	1105.0	-	
土1 (AD8)-1	AD8-SD1-1	深鉢	橙色	橙色	白・黒光・金色・乳白・赤	胴下～底部	-	-	14.0	-	勝坂後半	内-撫で/外-撫で→隆線文→沈線文(棒状工具)
土1 (AD8)-2	AD8-SD1-6	深鉢	橙色	橙色	白・乳白・黒光・黒	胴部片	-	-	-		勝坂前半	内-横撫で/外-隆線文→連続押し文→沈線文
A0土5-1	A0-SD5-一括	深鉢	橙色	橙色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	外-隆線(押し引き文)→縦条線文
ピ2 (AD8)-1	AD8-PT2-1	深鉢	黒褐色	にぶい赤褐色	白・黒・黒光・赤	胴下～底部片	-	-	9.0	-	五領ヶ台	内-横撫で/外-縄文
A0土4-1	A0-SD4-1/2/4/一括	深鉢	にぶい赤褐色	灰褐色	白・乳白・黒・黒光・赤	口縁部片	-	46.0	-	-	曽利前半	外-隆線文(半竹内皮)→粘土紐貼付
A0土4-2	A0-SD4-3/6/一括、R2-PT2	深鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・乳白・黒・赤	胴～底部片	-	-	11.4	-	曽利前半	外 RL縄文→粘土紐(蛇行垂下)
A0土4-3	A0-SD4 一括	台石	-	-	花崗岩	-	20.0	16.0	8.2	4060.0	-	
A0土4-4	A0-SD4-7	石棒状石器	-	-	雲母片岩	-	30.8	8.0	7.5	2600.0	-	
A0土1-1	A0-SD1-1	深鉢	にぶい褐色	褐色	乳白・白・赤・黒	口縁1/6～胴部	-	32.0	-	-	曽利後半	内-撫で/外-口縁部隆線文、胴部斜め条線(半竹内皮)→沈線(竹管)蛇行垂下
A0土1-2	A0-SD1-2	深鉢	暗褐色	暗褐色	白・黒・黒光・赤	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	外-条線→上部は横沈線(竹管)→下部は沈線(竹管)蛇行垂下
A0土1-3	A0-SD1-上層	深鉢	にぶい黄橙色～灰黄褐色	にぶい黄橙色～灰黄褐色	黒・白・赤	口縁部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-横撫で/外-口縁突起上に三角押し文・三叉文
A0土3-1	A0-SD3-1/3	浅鉢	にぶい黄褐色	明黄褐色	白・乳白・黒・赤	口縁部片	-	46.0	-	-	勝坂後半	外-半肉彫り
A0土3-2	A0-SD3-上層	深鉢	にぶい黄橙色	褐色	白・黒・黒光・赤	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-押し圧文・条痕
包-1	A0 1	土偶	-	明褐色～灰褐色	白・黒・黒光・赤	肩～胴上半部	-	-	-	-	曽利	腹部に沈線文
包-2	A2-一括	ユーズドフレイク	-	-	頁岩	-	4.5	7.0	0.9	26.3	-	
包-3	A1-一括	打斧	-	-	ホルンフェルス	-	10.5	5.3	1.1	76.4	-	
包-4	A2-一括	打斧	-	-	ホルンフェルス	-	(8.5)	4.3	2.1	94.1	-	
包-5	A2-一括	リタッチドフレイク	-	-	黒曜石	-	1.4	2.5	0.7	2.3	-	
包-6	A5-一括	磨石	-	-	安山岩	-	5.5	4.0	2.7	96.7	-	
包-7	B2-PT2	ドリル	-	-	黒曜石	-	1.7	1.0	0.6	0.9		
土土-1	DSIB-7/11/12/43/44/55/57/59/63、DS-10/39/43/48/49/61/62/65/72/91	深鉢	にぶい褐色	にぶい橙色	金色・黒・白・赤	口縁1/2～底部	41.1	34.5	8.9	-	曽利後半	内-撫で/外-隆線文(脇撫で)→綾杉文(半竹内皮)
土土-2	DSI3-30/38/50/52/60/61/77/一括、DS-一括	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	黒光・金色・白・黒	3/8(口縁～底部)	28.9	19.8	8.8	-	曽利後半	外-隆線文(脇撫で)→ハの字文(竹管)→沈線文(竹管)蛇行垂下
土土-3	DSI3-27	壷	にぶい赤褐色	橙色	白・黒・赤	胴部片		-	-		曽利後半	内-ヘラ撫で/外-隆線(脇撫で)→条線(櫛歯状工具)→撫で
土土-4	DSIB-20	深鉢	にぶい橙色	にぶい褐色	白・黒・黒光	口縁1/8～胴上部	-	20.0		-	曽利後半	外-撫で→縦条線(櫛歯状工具)
土土-5	DSIB-4/9/13/14/22/23/24/33/34/36/40/81/一括、DS-32/93/131/184/一括	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい橙色	黒・白・金色・赤	口縁5/8～底部	26.3	21.7	7.0	-	曽利後半	内-横撫で/外-口縁部は縦に粘土紐(指つまみ痕)が巡る、胴部は隆線文(脇撫で)→綾杉文(半竹内皮)
土土-6	DSIB-8/15/16/17/18/19/26/28/29/37/41/45/46/51/53/56/一括、DS-133/一括	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・金色・赤	口縁1/2～胴部	-	30.2	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-隆線文(脇撫で)→沈線文(半竹内皮)
土土-7	DSIB-一括	深鉢	橙色	赤褐色	金色・乳白・白・黒	胴部1/4	-		-		曽利後半	内-横撫で/外-頸部は隆線→沈線文(竹管)内にハの字状条線、把手(2ヶ所)
土土-8	DSIB-一括	深鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・乳白・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	外-隆線(脇撫で)→綾杉状沈線文(半竹内皮)→沈線(蛇行垂下)
土土-9	DSIB-5	深鉢	黒褐色	黒褐色	白・乳白・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	外-隆線(脇撫で)→綾杉状沈線文(半竹内皮)
土土-10	DSIB-6	深鉢	橙色	褐色	白・黒光・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	外-縦条線(半竹内皮)
土土-11	DSIB-35	深鉢	明褐色	褐色	白・金色・赤・黒光・黒	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	外-隆線→竹管による刺突文・沈線文
土土-12	DSIB-42	凹石	-	-	安山岩	-	8.3	5.8	4.4	233.0	-	
土集-1	DS-178	深鉢	にぶい黄橙色	橙色	白・黒・黒光・赤・金色	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-隆線文→連続爪形文
土集-2	DS-63	深鉢	黄褐色	明赤褐色	黒・白	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	内-撫で/外-隆線文(脇撫で)上にハの字状刻み
土集-3	DS-209	深鉢	灰黄褐色	明黄褐色	白・黒・赤・金色	胴部片	-	-	-	-	勝坂後半	外-撫で→縦・横沈線文(棒状工具)
土集-4	DS-43	深鉢	黒褐色	にぶい橙色	白・赤・黒・黒光	胴部片	-	-	-		曽利前半	内-撫で/外-縄文→隆線(棒状工具による刻みあり)
土集-5	DS-一括	深鉢	褐色	にぶい褐色	白・黒・赤	口縁下部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-隆線→撫で(竹管)
土集-6	DS-128	深鉢	褐色	橙色	白・赤・乳白・黒	胴部片	-			-	曽利前半	内-横撫で/外-縄文→隆線(棒状工具による刻みあり)
土集-7	DS-215	深鉢	暗褐色	にぶい赤褐色	白・黒・黒光	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-単節LR縄文
土集-8	DS-一括	深鉢	灰褐色	橙色	白・赤・黒	胴部片	-			-	曽利前半	内-撫で/外-縄文→縦沈線
土集-9	DS-204	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-撫で→刺突文(雨だれ)
土集-10	DS-162	深鉢	褐色	明褐色	白・黒光・金色・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	外-縄文→隆線文→沈線

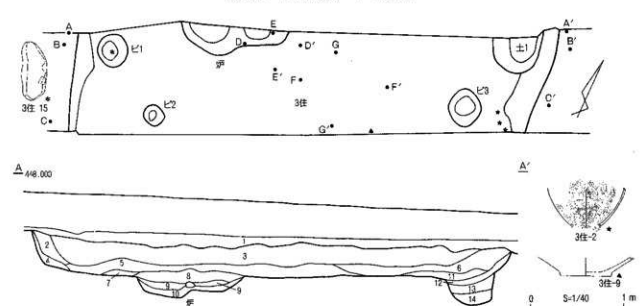
報告No.	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・縦	口径・横	底径・厚さ	重量	時期	備考
土集-11	DS-51	深鉢	橙色	明黄褐色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-		曽利前半	内-撫で/外-LR縄文→隆帯上を半竹内皮による隆線状撫で
土集-12	DS-一括	深鉢	にぶい橙色	橙色	白・黒	胴部片	-	-		-	曽利前半	内-撫で/外-撚り糸→磨り消し(三角文)
土集-13	DS-61/65/154/237	深鉢	黒褐色	にぶい橙色	白・乳白・黒光・赤	胴部片	-		-	-	曽利前半	外-縄文→粘土紐(蛇行垂下)
土集-14	DS-206	小鉢	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	金色・白・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-単節LR縄文→沈線(棒状工具)が蛇行垂下
土集-15	DS-218	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利前半	内-撫で/外-単節LR縄文→粘土紐(蛇行垂下)
土集-16	DS-220	深鉢	にぶい褐色	橙色	白・黒・黒光	胴部片	-	-		-	曽利前半	内-撫で/外-条線→沈線文(半竹内皮)
土集-17	DS-28	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・金色	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-肥厚口縁上に沈線文(棒状工具)
土集-18	DS-42/146	深鉢	黒褐色	褐色	白・金色・赤・黒	口縁部片	-	-	-	-	曽利前半	内-磨き状横撫で/外-縦条線(半竹内皮)→横隆線
土集-19	DS-235	深鉢	橙色	にぶい赤褐色	白・黒	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-肥厚口縁に渦巻き状沈線文(棒状工具)
土集-20	DS-89	深鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	金色・白・黒・赤	口縁部片	-		-	-	曽利後半	内-撫で/外-粘土貼付→ヘラ撫で→沈線(櫛歯状工具)
土集-21	DS-149/150/192	深鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	金色・白・黒光・赤	頸部片	-	-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-撫で→縦条線(半竹内皮)→沈線文(棒状工具)
土集-22	DS-一括	小型深鉢	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・黒光・赤・金色	口縁部片	-	8.3	-	-	曽利後半	内-撫で/外-撫で→沈線文(棒状工具)
土集-23	DS-203	深鉢	にぶい褐色	灰褐色	金色・白・黒	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-撫で→縦条線(櫛歯状工具)
土集-24	DS-108	深鉢	明赤褐色	橙色	乳白・白・黒光・黒	肩部片	-	-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-隆線→脇撫で(棒状工具)→雨だれ列点文
土集-25	DS-234	深鉢	にぶい褐色	褐色	白・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-沈線文(櫛歯状工具)→沈線(棒状工具)が蛇行垂下
土集-26	DS-44	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・黒光	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-撫で→雨だれ列点文
土集-27	DS-一括	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-撫で→ハの字文(竹管)
土集-28	DS-32	深鉢	橙色	橙色	白・金色・黒・赤・黒光	胴部片	-	-	-	-	晩期	内-撫で→細い沈線数本あり/外-横方向条痕(棒状工具)
土集-29	DS-120	深鉢	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・金色・乳白・赤・黒	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-条線文(櫛歯状工具)
土集-30	DS-14	壺	灰褐色	にぶい橙色	黒・白・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	内-撫で/外-刷毛目→渦巻状沈線(棒状工具)
土集-31	DS-19	皿	明赤褐色	灰褐色	白・黒	胴部片	-	-	-	-	晩期	内-撫で/外-沈線文(棒状工具)
土集-32	DS-25	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・黒光・赤	胴部片	-	-	-	-	晩期	内-撫で/外-横条線(櫛歯状工具)
土集-33	DS-58	深鉢	明赤褐色	明赤褐色	白・黒	底部	-	-	8.4	-	中期	内-撫で/外-木葉痕
土集-34	DS-148	深鉢	にぶい黄橙色	にぶい褐色	白・乳白・黒・黒光	底部1/3	-	-	10.4	-	中期	内-横撫で/外-外周の一部に網代痕
土集-35	DS-146/169/198	浅鉢	暗褐色	暗赤褐色	白・金色・赤・黒	胴下～底部片	-	-	8.3	-	中期	内-横方向の磨き状撫で/外-磨き状撫で
土集-36	DS-一括	深鉢	にぶい赤褐色	明赤褐色	白・黒・黒光・赤	底部1/2	-	-	7.0	-	中期	内-撫で/外-網代痕
土集-37	DS-207	土偶	-	にぶい橙色～黒褐色	白・金色・黒光・赤・乳白	胴体部	-	-	-	27.5	曽利	胸部剥落、背面と脇に沈線文
土集-38	DS-140	横刃	-	-	頁岩	-	12.0	6.1	2.3	156.0		
土集-39	DS-141	敲石	-	-	砂岩	-	11.6	5.1	2.7	220.8	-	
土集-40	DS-213	礫器	-	-	凝灰岩	-	7.7	9.1	2.7	209.0	-	
土A-1	SDA-2/3/7/9	深鉢	にぶい黄橙色	灰黄褐色	白・乳白・黒・黒光・金色・赤	口縁～胴部1/2	-	32.2	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-縄文→沈線文(棒状工具)
土A-2	SDA-11/12/13/14	深鉢	にぶい橙色	褐色	白・黒・赤・黒光	口縁1/4～胴部	-	32.0	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-無文で上部は横撫で、下部は縦撫で
土A-3	SDA-6	深鉢	にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・金色・赤	胴部片		-	-	-	曽利後半	内-横撫で/外-隆線貼付後脇撫で(竹管)→ハの字文(竹管)
溝1-1	MZ1-3	礫器	-	-	砂岩	-	7.9	9.3	3.2	251.8	-	
溝5-1	MZ5-風倒木	深鉢	にぶい橙色	灰褐色	白・黒・赤	頸部片		-	-	-	曽利前半	外-撫で→粘土紐による波状文・隆線文(半竹内皮)
溝5-2	MZ5-1	深鉢	にぶい褐色	にぶい橙色	金色・黒光・白・黒	胴下部片	-	-	-	-	曽利後半	外-沈線(竹管)→綾杉文(半竹内皮)
溝5-3	MZ5-一括	S字甕	黄褐色	にぶい黄褐色	白・金色・黒・赤	胴上部片		-	-	-	古墳	内外-刷毛整形
溝5-4	MZ5-一括	まる石	-	-	安山岩	-	3.1	3.1	2.7	22.4	-	
包-8	H20-一括	土偶	-	にぶい橙色～黒褐色	白・乳白・黒	胴体部	-	-	-	33.8	曽利	外-細かい沈線文あり
包-9	H20-一括	深鉢	褐色	褐色	白・黒光・黒・赤	口縁部片	-		-	-	曽利後半	外-沈線文(指撫で)
包-10	H20-一括	深鉢	暗褐色	褐色	金色・黒光・白・赤	口縁部片	-	-	-	-	曽利後半	外-肥厚口縁に沈線文(指撫で)
包-11	H20-一括	深鉢	明黄褐色	灰黄褐色	白・黒光・金色・赤	胴部片	-	-	-	-	曽利後半	外-縦沈線(棒状工具)→綾杉文(櫛歯状工具)
包-12	G21-一括	打斧	-	-	頁岩	-	13.5	5.6	1.6	170.6		
包-13	G21-一括	打斧	-	-	ホルンフェルス	-	9.9	4.8	1.9	109.4	-	
包-14	G22-一括	砥石	-	-	ソウカイ岩	-	15.7	3.4	2.7	207.7	-	
埋甕1-1	SU-A	深鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	白・金色・黒・赤	7/8(口縁～胴部)	-	45.0	-	-	曽利後半	内-撫で/外-口縁部無文、胴部は縦条線(半竹内皮)→隆線による渦巻文(脇指撫で)、把手(4単位)
埋甕2-1	SU-B	深鉢	にぶい橙色	暗褐色	白・黒・黒光	7/8(口縁～胴上部)	-	46.6	-	-	曽利後半	内-撫で/外-口縁部無文、胴部は縦条線(櫛歯状工具)→隆線による渦巻文(脇指撫で)、把手(4単位)
埋甕2-2	SU-B	リタッチドフレイク			黒曜石	-	3.8	2.3	0.6	5.4	-	



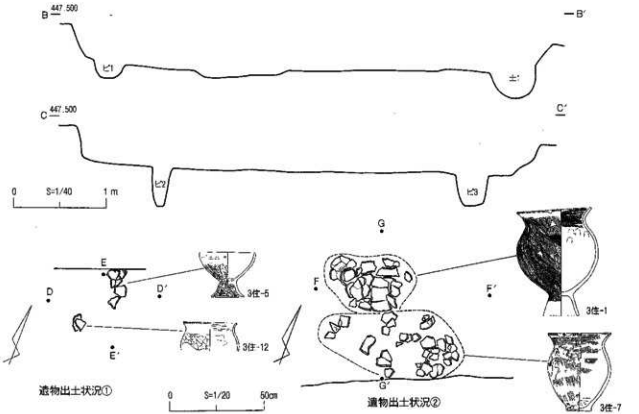
第39図　坂井南遺跡遺構配置図



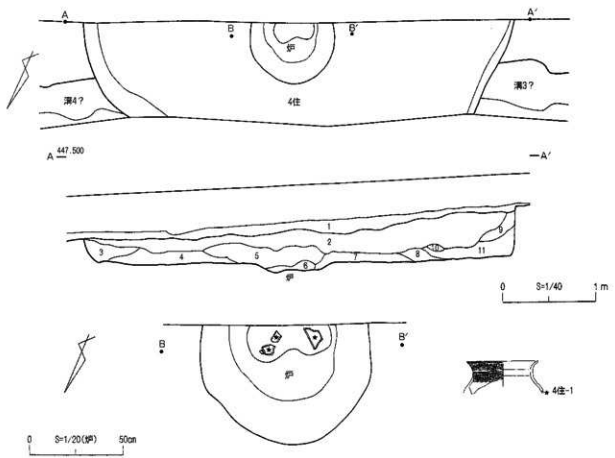
第40図　2号住居跡　平・断面図



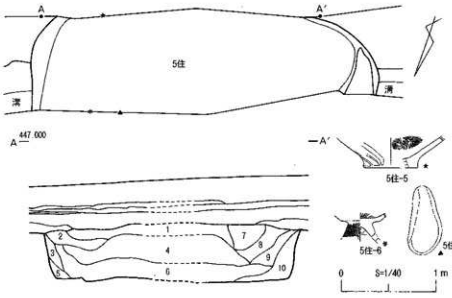
第41図　3号住居跡　平・断面図(1)



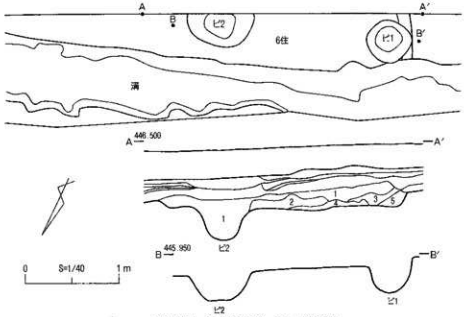
第42図　3号住居跡　平・断面図(2)



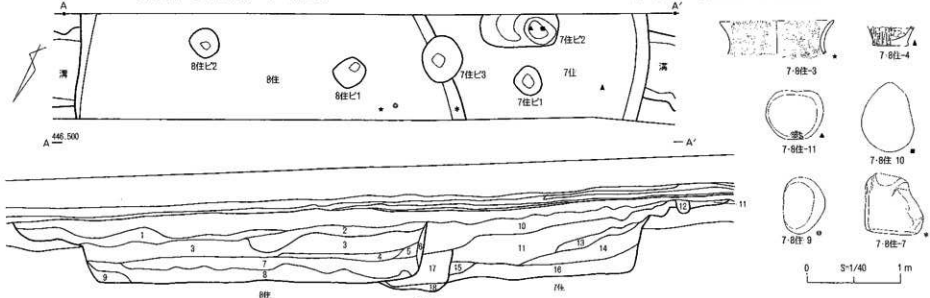
第43図　4号住居跡　平・断面図



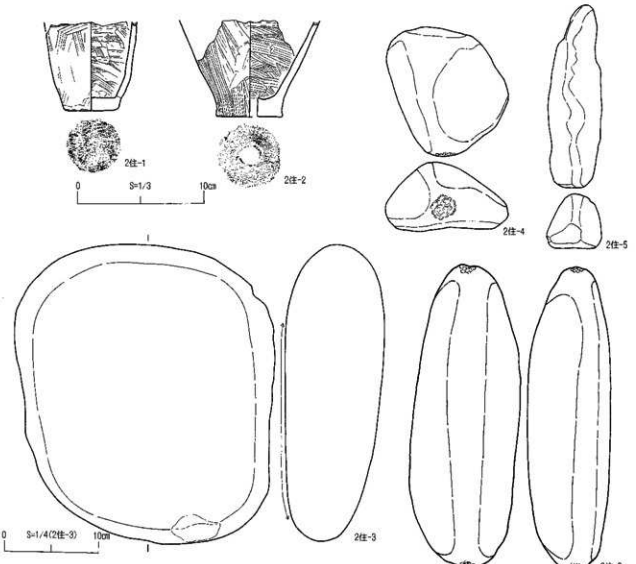
第44図　5号住居跡　平・断面図



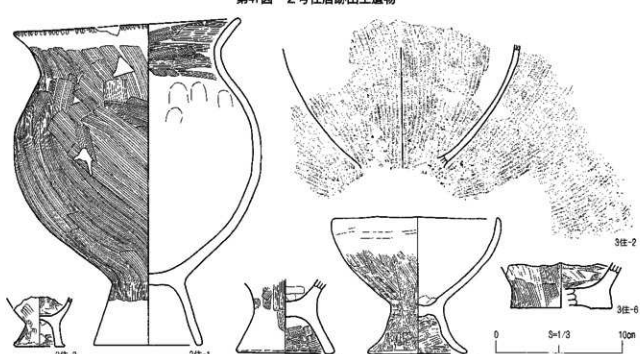
第45図　6号住居跡　平・断面図



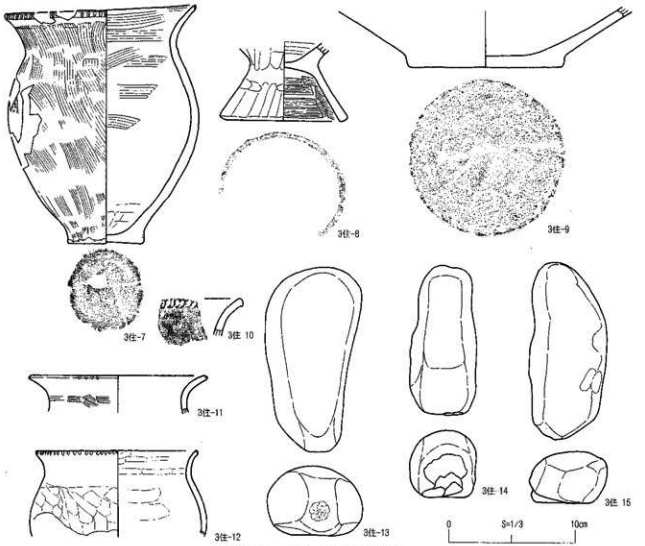
第46図　7・8（9）号住居跡　平・断面図



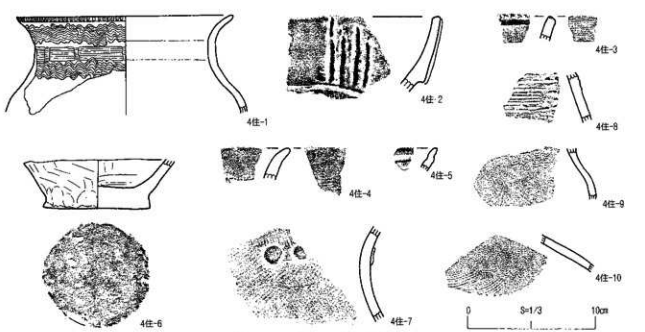
第47図　2号住居跡出土遺物



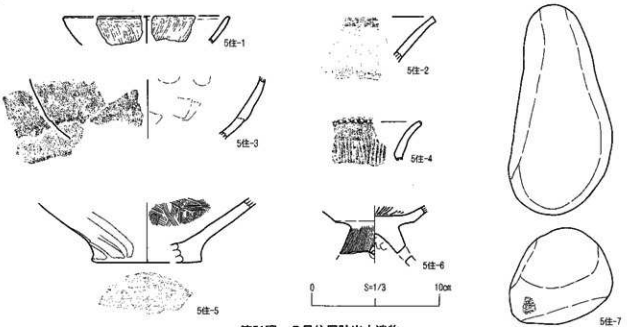
第48図　3号住居跡出土遺物①



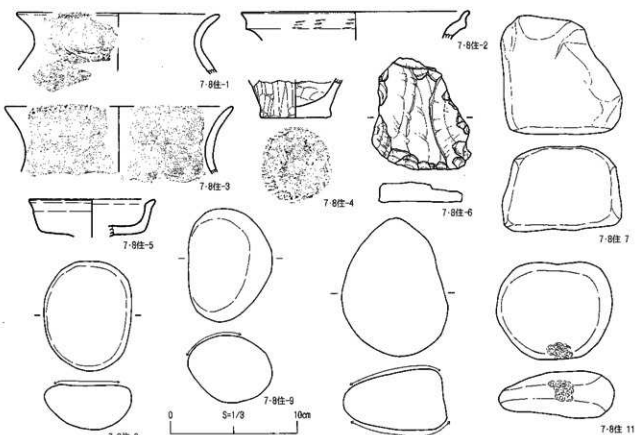
第49図　3号住居跡出土遺物②



第50図　4号住居跡出土遺物



第51図　５号住居跡出土遺物



第52図　７・８号住居跡出土遺物

第53図　溝出土遺物

坂井南遺跡遺物観察表

報告№	注記番号	器種	色調(内)	色調(外)	胎土・石材	部位	器高・縦	口径・横	底径・厚さ	重量(g)	時期	備考
2住-01	JU02-1	小鉢	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒	底部～胴部		-	4.2	-	弥生	内-横刷毛目/外-縦刷毛目→撫で
2住-02	JU02-2	甑	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・金色	底部～胴部		-	5.2	-	弥生	内-横刷毛目/外-縦刷毛目
2住-03	JU02-床直	台石	-		安山岩	-	31.8	27.6	10.5	16200.0	-	
2住-04	JU02-9	磨石	-		花崗岩	-	10.3	9.7	5.4	603.8	-	
2住-05	JU02-8	磨石	-	-	砂岩	-	14.4	4.3	4.3	342.2	-	
2住-06	JU02-10	磨石	-	-	安山岩	-	23.7	8.7	6.7	1980.0	-	
3住-01	JU03-1/7/9	台付甕	灰褐色	明黄褐色～赤褐色	白・黒・金色・黒光	完形	25.4	17.8	8.4	-	古墳	内-口縁～頸部横刷毛目、胴部指頭痕/外-口縁部刻み、胴部縦刷毛目
3住-02	JU03-4/5/13/床直	台付甕	褐色	褐色	黒・白・赤	胴下半部	-	-	-	-	古墳	内-縦撫で/外-縦刷毛目
3住-03	JU03-上層	小型台付甕	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・金色・赤	脚部～胴下部	-	-	4.0	-	弥生	内外-撫で、刷毛目
3住-04	JU03-上層	台付甕	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・金色・赤	脚部	-		7.8	-	弥生	内-見込部ヘラ撫で、脚部横刷毛目/外-縦刷毛撫で
3住-05	JU03-3/中層	高坏	橙色	橙色	金色・白・赤・黒	略完形	10.8	12.8	6.5	-	古墳	内-胴部撫で、見込部指頭痕、脚部刷毛撫で/外-口縁部横撫で、胴～脚部、刷毛撫で
3住-06	JU03-上層	甕	灰褐色	にぶい褐色	白・黒	底部	-	-	8.0	-	弥生	内-横刷毛目/外-縦刷毛目
3住-07	JU03-7/8/中層	小型甕	にぶい褐色	赤褐色～にぶい赤褐色	赤・黒・白	ほぼ完形	13.5	15.0	6.0	-	古墳	内-横刷毛目/外-口唇部刻み、縦刷毛目
3住-08	JU03-上層/下層	台付甕	橙色	橙色	白・黒・赤・金色	脚部	-	-	10.0	-	弥生	内-横刷毛目/外-縦ヘラ撫で
3住-09	JU03-18	壺	橙色	橙色	白・黒・赤	底部	-	-	12.0	-	古墳	内外-撫で
3住-10	JU03一括	甕	橙色	橙色	白・黒光・黒	口縁部片	-	-		-	古墳	内-撫で/外-口唇部刻み、撫で
3住-11	JU03 上層	壺？	赤橙色	赤橙色	白・黒	口縁部	-	14.0	-	-	弥生	内-撫で、赤彩/外-口縁部刻み、撫で→横刷毛目、赤彩
3住-12	JU03-2/7	甕	にぶい橙色	赤褐色	金色・白・赤	口縁～胴部	-	12.5	-	-	古墳	内-横撫で/外-口唇部刻み、頸部横撫で、胴部削り
3住-13	JU03-中層	敲石	-	-	ギョウカイ岩	-	14.6	8.6	5.6	847.6	-	
3住-14	JU03 下層	敲石	-	-	安山岩	-	11.9	5.2	5.3	485.1	-	
3住-15	JU03-P14	敲石	-	-	ギョウカイ岩	-	14.0	6.2	4.0	476.0	-	
4住-1	JU4-炉1/炉2/下層	甕	にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・赤	口縁～頸部	-	17.0			弥生	内-撫で/外-口縁部刻み、頸部波状文(簾書)
4住-2	JU4-中層	甕	にぶい橙色	にぶい黄橙色	白・黒光・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	弥生	内-横撫で/外-口縁部縦粘土紐貼付(4本)、胴部縦刷毛目？
4住-3	JU4-中層	甕	にぶい褐色	にぶい橙色	黒・白・赤	口縁部片	-	-	-	-	弥生	内-横刷毛目/外-口唇部刻み、縦刷毛目
4住-4	JU4-中層	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	弥生	内-横撫で、横刷毛目/外-横撫で、縦刷毛目
4住-5	JU4-中層	S字口縁甕	橙色	にぶい褐色	黒・白	口縁部片	-	-	-	-	古墳	内外-横撫で
4住-6	JU4-中層	甕	にぶい褐色～黒褐色	明褐色	白・透明・黒	底部		-	8.4	-	古墳	内-見込部指撫で？/外-縦刷毛目、指頭痕
4住-7	JU4-下層	甕	橙色	橙色	白・黒・黒光	頸部	-	-	-	-	弥生	内-撫で/外-単節LR縄文→沈線(簾書)→ボタン貼付文
4住-8	JU4-中層	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・白・赤	胴部片	-		-	-	弥生	内-横撫で/外-横刷毛目
4住-9	JU4-下層	甕	橙色	にぶい橙色	黒・白・赤・黒光	胴部片	-	-	-	-	弥生	内-横撫で/外-横撫で→波状文(簾書)
4住-10	JU4-下層	甕	にぶい橙色	にぶい褐色	金色・白・黒・赤	胴部片	-	-	-	-	弥生	内-横撫で/外-横刷毛目、波状文(簾書)
5住-1	JU5 一括	高坏？	にぶい黄橙色	明黄褐色	白・金色・赤・黒	口縁部	-	13.0	-	-	古墳	内外-丁寧な磨き
5住-2	JU5 一括	壺？	灰褐色	褐灰色	白・金色・黒光・黒・赤	口縁部片	-	-	-	-	弥生	外-口唇部と頸部に刺突文
5住-3	JU5 一括	甕？	にぶい褐色	にぶい赤褐色	金色・白・赤・黒	胴下半部	-	-	-	-	古墳	内-ヘラ削り、指頭痕あり/外-刷毛整形、輪積み痕あり、黒変(煤？)
5住-4	JU5一括	甕	黄橙色	にぶい橙色	白・金色・赤・黒	口縁部片	-	-	-	-	古墳	内-頸部横刷毛目/外-口唇部刻み、縦刷毛目
5住-5	JU5-5	壺	黒褐色	褐灰色	白・黒・黒光・金色	胴部～底部	-	-	8.6	-	弥生	内外-細かい刷毛整形
5住-6	JU5-1	高坏	浅黄橙色	にぶい黄褐色	白・黒・金色・赤	坏部-脚部	-		-	-	弥生	内-見込部磨き、一部黒変/外-坏部磨き、脚部に穿孔(4単位)、縦刷毛整形
5住-7	JU5-2	磨石	-	-	安山岩	-	16.6	8.2	7.7	1200.0	-	
7·8住-1	JU7·8一括	甕	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤	口縁～頸部	-	16.0	-		弥生	内-撫で、赤彩/外-沈線(簾書)、赤彩
7·8住-2	JU7·8一括	S字口縁甕	にぶい橙色	にぶい赤褐色	白・赤・黒・金色	口縁部	-	18.0	-		弥生	内-横撫で/外-横撫で、横刷毛目
7·8住-3	JU7·8-1	甕	黒褐色	にぶい橙色	白・黒・赤	口縁～頸部	-	18.0		-	弥生	内-横刷毛目/外-口唇部刻み、撫で
7·8住-4	JU7·8-3	甕	にぶい黄橙色	にぶい橙色	?	胴部～底部	-		5.6	-	?	内-横撫で/外-縦ヘラ撫で、底部網代痕
7·8住-5	JU7·8一括	高坏	橙色	橙色	黒・白・赤・金色	坏部	-	10.0	-	-	弥生	内外-横撫で
7·8住-6	JU7·8一括	打斧	-	-	頁岩		8.8	7.8	1.5	140.5	-	
7·8住-7	JU7·8-2	磨石	-	-	砂岩	-	9.4	9.4	6.7	893.0	-	
7·8住-8	JU7·8-東壁	磨石	-	-	安山岩	-	8.7	7.0	3.5	314.0	-	
7·8住-9	JU7·8-4	磨石		-	安山岩	-	9.0	6.6	5.4	410.9	-	
7·8住-10	JU7·8-6	磨石	-		安山岩		11.0	8.3	4.9	595.7	-	
7·8住-11	JU7·8-5	敲石	-	-	安山岩	-	7.7	9.1	3.7	346.3	-	
溝-1	MZ一括	S字口縁甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・金色	口縁～頸部	-	18.8	-	-	古墳	内-撫で、横刷毛目/外-撫で、縦横刷毛目
溝-2	MZ一括	S字口縁甕	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒光	口縁～頸部	-	19.2	-	-	古墳	内外-撫で、縦横刷毛目
溝-3	MZ一括	S字口縁甕	黒色	暗褐色	白	口縁部		21.0	-	-	古墳	内-撫で/外-撫で、縦刷毛目
溝-4	MZ一括	甕？	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白	口縁-頸部	-	15.2	-	-	弥生？	内-撫で、横刷毛目/外-撫で、口唇部刻み、頸部に輪積痕と縦刷毛目？

坂井遺跡土層観察表

遺構名	層No	ベース土壌	層位説明
基本土層	I	明茶褐色土	φ0.5～1mmLR多　φ0.5mmC・FR少
	II	黒褐色土	φ3～5mm黒色ブロック多
	III	暗褐色土	φ1mmC少　φ1～3mmLR少
	IV	明黄褐色土	ロームブロック多く含む
1住	1	暗茶褐色土	上層　φ1mmFR・Cやや多　φ1～2mmLRやや少　土器片等やや少
	2	暗黄褐色土	下層　φ3～5mmLB少　φ1～2mmLRやや少　φ1mmFR・C少
	3	暗黄褐色土	掘り方①　φ1～2mmLRやや少
	4	暗黄褐色土(やや明)	掘り方①　φ1～2mmLRやや少
	5	明黄褐色土	掘り方②　ソフトローム主体
		粘性	5>3・4>2>1
		しまり	1>4>2・3・5　※1は過のために弱い
		きめ	1>3・5>2>4
2住	1	暗褐色土	φ3～5mmLBやや少　φ1mmLR少　φ1～2mmFR・C微
	2	暗黄褐色土	漸移層+ソフトローム
	3	暗黄褐色土	漸移層+ソフトローム　色調やや暗(ピット3)
		粘性	2・3>1
		しまり	2>1・3
		きめ	1>2・3
2住壁溝	1	明黄褐色土	JU2貼り床　HLB主体
	2	暗黄褐色土	HLBと漸移層　φ1mmFR微
	3	暗黄褐色土	φ1～2mmLR少　FR微
	4	暗黄褐色土	ソフトローム主体　φ1mmLRやや少　FR・C微
	5	明黄褐色土	φ3～5mmLB少　φ1～2mmLR
	6	暗黄褐色土	ソフトローム+漸移層　φ10mmLB少
		粘性	1～3>4～6
		しまり	1>2・3>4～6
		きめ	1・6>2～5
2住堀党内	1	暗褐色土	φ2～3mmLRやや多　φ1mmC・FRやや少
	2a	暗褐色土	φ2～3mmLRやや少　φ1～2mmC・FR少
	2b	暗褐色土	φ1mmLRやや少　2aよりも固くしまる
	2c	暗褐色土	2bに似る
	2d	暗褐色土	2aに似るが　しまりやや強　ややザラザラする
	3	暗黄褐色土	漸移層+ソフトローム
	4	暗褐色土	2層に似るが　しまり極めて強　やや明るい
3住	1	暗褐色土	Ⅲ層主体　φ1mmC少　φ1～3mmLR少
	2	明黄褐色土	床面　Ⅳ層主体　ロームブロック多
	3	明黄褐色土	掘り方　Ⅳ層主体　ロームブロックやや多
	4	明褐色土	φ1mmC少　φ2～10mmLB少(SD2)
		粘性	2～4>1
		しまり	2・3>4>1
		きめ	3>2・4>1
7住	1	暗黒褐色土	上層　φ1～2mmLRやや少　φ1mmC少
	2	暗褐色土	中・下層　ソフトローム－漸移層+Ⅰ層
	3	暗黄褐色土	壁際　ソフトローム主体
	4	暗黒褐色土	下層　φ1mmLR少
10住	1	暗黄褐色土	上層　φ1mmLR少　φ1mmC微
	2a	暗褐色土	中層～下層　φ1mmC・FR微
	2b	暗褐色土	中層～下層　2aに似るが色調やや明
	3	明黄褐色土	壁際～下層　漸移層+ソフトローム
	4	明黄褐色土	漸移層－ソフトローム(SD1)
10住堀党	1	暗褐色土	ソフトローム+漸移層　φ2～3mmLR微
	2	暗黄褐色土	ソフトローム主体　φ1mmC微
		粘性	ともにやや強
		しまり	ともにやや強
		きめ	ともにやや粗
8住	1	暗茶褐色	上層　φ1～2mmFR・Cやや多　土器片多量
	2	暗褐色土	壁際　φ2～3mmLBやや少
	3	暗褐色土	掘り方　φ10～20mmLB少　φ2～3mmLB少
8住PT1	①	暗黄褐色土	床面の落ち込んだもの　ソフトローム主体
	②	暗褐色土	φ2～5mmLBやや少　φ1～2mmC少
	③	暗褐色土	φ10mmLBやや少
	④	明黄褐色土	ソフトローム+漸移層
		粘性	3・4>1>2
		しまり	1>3>4>2
		きめ	2・3・4>1
9住	1	暗褐色土	φ1mmLRやや少
	2	暗褐色土	φ1mmLRやや多
	3	暗黄褐色土	φ1mmLRやや多　φ1mmC・FRやや少
	4	暗黄褐色土	φ1mmC・FRやや少
		粘性	3・4>1・2
		しまり	3・4>1>2
		きめ	2>3・4>1
11住SD1	1	暗褐色土	住居フク土
	2a	暗黄褐色土(やや明)	崩落土　漸移層－ソフトローム
	2b	暗黄褐色土(やや暗)	崩落土　漸移層－ソフトローム
	2c	暗黄褐色土(明)	崩落土　漸移層+ソフトローム
	2d	暗黄褐色土(やや明)	崩落土　漸移層－ソフトローム
	2e	暗黄褐色土(やや暗)	崩落土　漸移層+ソフトローム
	3a	暗褐色土(暗)	上層　φ1mmC少　φ1mmFR少
	3b	暗褐色土(やや暗)	上層　φ1mmC少　φ1mmFR少
	3c	暗褐色土(やや明)	上層　φ1mmC少　φ1mmFR少
	4a	暗褐色土(やや暗)	下層　φ2～3mmLR少
	4b	暗褐色土(やや暗)	下層　φ1～2mmLR・C少
	4c	暗褐色土(やや暗)	下層　φ2～5mmLRやや少
	4d	暗褐色土(やや明)	下層　φ2～3mmLRやや少　φ5～10mmLB少　φ1～2mmC少
		粘性	4d>3a～4c>2>1
		しまり	2>4d>3a～4c>1
		きめ	3b・4a>4d>4b・4c>1～3a・3c
12住	1a	暗黄褐色土	旧表土　砂利+暗黄褐色土
	1b	暗黄褐色土	旧表土
	1	暗褐色土	上層　ソフトローム+漸移層　φ1～2mmLR・C・FR少
	2	暗黄褐色土	下層　ソフトローム+漸移層　φ1～2mmLR少　φ1mmC・FR微
	3	暗黄褐色土(色調明)	壁際　ソフトローム－漸移層
13住	1	黒褐色土	上層　φ1mmC・FR微
	2	暗黄褐色土	中層　φ2～3mmLR少　φ1mmC微
	3	暗黄褐色土	下層　2に似るが色調明るくしまりやや強い
	4	暗褐色土	炉内　φ1mmFR・Cやや少
		粘性	2・3>1>4
		しまり	3>2>4>1
		きめ	4>1>2・3
13住PT1	①	明黒褐色土	ソフトローム・漸移層をまだらに含む
	②	暗黄褐色土	漸移層主体
14住	1	暗褐色土	フク土　φ1mmC・FR微　φ1mmLR少
	2	明黄褐色土	掘り方　φ1mmC微
AO-SD1	1	暗褐色土	φ1～2mmC少　φ3～5mmSLB少
	2	暗褐色土	φ2～3mmLB少
	3	暗褐色土	φ3～5mmLBやや少
	4	暗褐色土	φ1mmLR少
	5	暗褐色土	φ2～5mmLB少　φ1mmLRやや多
	6	暗黄褐色土	φ10～20mmLBやや少
		粘性	3>2・4・5・6>1
		しまり	1>2・6>5>3・4
		きめ	6・4>1・2・3・5
AO-SD4	1	暗褐色土	φ2～5mmSLB少　φ10mmSLB微　φ1mmC微
	2	暗黄褐色土	φ5～10mmSLBやや少　φ1mmFR・C少
		粘性	1・2共にやや強い
		しまり	1・2共にやや強い
		きめ	2>1
SD1(AD8)	①	暗褐色土	φ1～2mmLR少　φ1mmC微
SD2(AD8)	1	暗褐色土	漸移層主体
	2	暗黄褐色土	ソフトローム50%　漸移層50%
	3	明黄褐色土	ソフトローム70%　漸移層30%　φ1mmC微
		粘性	3>2>1
		しまり	2・3>1
		きめ	1>2・3
南北ライン	1	暗褐色土	フク土　φ5mmFR・Cやや少
	2	明黄褐色土	床　φ5～10mmロームブロックやや多　しまり強
	3	暗黄褐色土	掘り方　φ1mmC微
土器集中	I	明茶褐色土	φ0.5～1mmLR多　φ5mmC・FR少　φ0.5mm白色粒子やや多　砂っぽい
	II	黒褐色土	φ3～5mm黒色ブロック多
	1	暗黄褐色土	漸移層+ソフトローム　φ1mmFR・Cやや多　φ1mmLR微　土器等を含む
	2	明茶黒褐色土	φ0.5mmLRやや多　上面に遺物ややあるが基本てきには含まれない

遺構名	層No	ベース土壌	層位説明
土器集中	3	黒色土	ややシルト質
	4	明茶褐色土	3層とソフトロームの混合土
1号埋甕	1a	暗黒褐色土	φ1mmLR少　漸移層+腐植土
	1b	暗褐色土	φ1mmLR少　漸移層+ソフトローム
	1c	暗褐色土	φ1mmLRやや少　φ1mmFR·C微　漸移層
	2a	暗褐色土	φ0.5~1mmLR少
	2b	暗褐色土	2aに似るが　色調明　φ3~5mmLB微
	3	暗黒褐色土	φ1mmLRやや少　φ1mmC少
	4	暗黄褐色土	ソフトローム+漸移層　φ1mmLR少
		しまり	3>1a·1b·1c>2a·2b·4
1号埋甕(Bライン)	1a	明黄茶褐色土	住居貼り床　φ3~3mmLBやや少　漸移層主体
	1b	明黄褐色土	生活貼り床　漸移層+ソフトローム
	1c	暗黄褐色土	住居貼り床　漸移層+ソフトローム　φ1mmC微
	2a	暗黄褐色土	φ1mmLR少　漸移層+ソフトローム
	2b	暗褐色土	φ1mmLRやや少　φ1mmFR·C微　漸移層
	2c	暗黄褐色土	ソフトローム(地山がくずれたか？)
	3	暗褐色土	2b層が流入したもの　しまり弱
	4	暗黒褐色土	φ1mmLRやや少　φ1mmC少　しまり強
	5	暗黄褐色土	ローム主体
	6	暗黄褐色土	ローム+漸移層　φ1mmFR·C微
	7	暗黄褐色土	ローム主体　(地山の可能性あるがしまりなし)
	8	暗褐色土	φ1mmLRやや多　φ1mmC·FR少
2号埋甕	1	明黄褐色土	ソフトローム主体　しまり弱　きめ粗い
	2a	暗褐色土	φ1mmLR多　φ1mmC少　φ1mmFR微
	2b	暗褐色土	2aに似るが　きめ粗い　しまり弱い
	2c	暗褐色土	2aに似るが　しまり強い
	3	明褐色土	φ1mmLR微
	4a	暗褐色土	φ1mmLRやや多　φ5mmSLB　漸移層Bやや多　しまり強い
	4b	暗褐色土	4aに似るが　しまり強い
	5a	明黒黄褐色土	4aに似るが　黒色が強く　しまりも強い

遺構名	層No	ベース土壌	層位説明
2号埋甕	5b	明黒黄褐色土	5aに似る　極めて硬くしまっている　(掘り方地埋めて　埋甕を設置しやすくする為か？)
SDA	1a	暗黄褐色土	漸移層主体　ソフトローム混合　φ1~2mmC少　φ5mmLB少
	1b	暗褐色土	1aに似るが色調暗　φ1~2mmCやや少
	2	暗黄褐色土	ソフトローム主体
		粘性	2>1a·1b
		明褐色土	1a>1b>2
		きめ	1b>1a·2
風倒木	1	暗黒褐色土	Ⅱ層+Ⅲ層(漸移層)　φ1~2mmLR多　φ1mmC微
	2	暗褐色土	Ⅲ層主体　φ1mmLR多　φ1mmFR·C少
	3	暗褐色土	2層より色調明
	4	暗黄褐色土	Ⅳ層(ソフトローム)主体　φ2~5mmLRやや多
溝1	1a	暗褐色土	φ1mmLRやや多　φ1mmC微
	1b	暗褐色土	1aに似るが　LR多
	2	暗褐色土	色調やや暗　φ1mmLR多
	3	暗褐色土	色調やや明　φ1mmLR多　漸移層+ソフトローム
溝2	1	暗黒褐色土	φ1mmLR多　φ1mmFR微　漸移層+[illegible]の黒土
	2a	暗褐色土	φ1mmLR多
	2b	暗褐色土	2aより色調やや明
	2c	暗褐色土	φ1mmLR少
	3	明褐色土	φ3~5mmLB少　ソフトローム+漸移層
溝3	1	暗褐色土	φ1mmLR·C少　粘性なし　(底面が凸凹している　畑の痕跡か？)
溝4	1	暗褐色土	φ1mmLR·C少　粘性なし
	2	明褐色土	φ2mmLR少　漸移層+ソフトローム
	3	明黄褐色土	ソフトローム主体　黒色土混入
溝5	1	暗褐色土	φ2~3mmLRやや少　φ1mmFR少
	2	明黄褐色土	ソフトローム　地山
	3	明黄褐色土	風倒木ツク土

坂井南遺跡土層観察表

遺構名	層No	ベース土壌	層位説明
2住	1	黄褐色土	きめ細かい
	2	暗黄褐色土	きめ細かい　炭化物を少量含む
	3	暗黄褐色土	ローム粒子を少量含む
	4	暗黄褐色土	2に似るが　色調やや明　きめ細かい
	5	黒色土	炭化物を多く含む　きめやや細かい
	6	黒色土	5に似るが　色調やや明
2住	7	黒褐色土	きめ細かい　ローム粒子を少量含む
	8	黒褐色土	7に似るが　色調やや明
3住	1	暗黄褐色土	しまり強　粘性弱　きめやや細かい
	2	暗黄褐色土	1に似るが　色調やや明　しまり弱　粘性弱　きめ細かい
	3	暗黄褐色土	1に似るが　色調やや暗　ローム粒子を多量に含む　きめ細かい
	4	暗黄褐色土	しまりやや強　粘性やや弱　きめやや細かい
	5	黒色土	しまり弱　粘性弱　きめやや細かい　焼土を所々に含む
	6	明黄褐色土	しまり弱　粘性強
	7	暗黄褐色土	2に似るが　色調やや明　しまり強　粘性やや強　きめやや粗い
	8	黒色土	5に似るが　色調やや明　黄褐色土が混じる　しまり弱　粘性やや強　きめやや細かい
	9	暗黄褐色土	しまり微弱　粘性無　焼土面より下層ボソボソ　きめ粗い
	10	黄茶褐色土	しまり微弱　粘性無
	11	明黄褐色土	6に似るが　色調やや暗　しまり弱　粘性弱　きめ細かい
	12	明黄褐色土	6に似るが　色調やや明　しまり弱　粘性弱　きめ細かい
	13	暗黄褐色土	しまりやや強　粘性やや強　きめやや細かい
	14	暗黄褐色土	13に似るが　色調やや暗　しまりやや強　粘性やや弱　きめ細かい
4住	1	黄褐色土	しまり強　粘性やや弱
	2	黄褐色土	しまり弱　粘性弱
	3	明黄褐色土	しまり強　粘性やや強
	4	明黄褐色土	しまり強　粘性弱
	5	明黄褐色土	4に似るが　色調やや明　しまり強　粘性やや強　少量の炭化物を含む
	6	暗赤褐色土	しまり弱　粘性弱　焼土を多量に含む(焼成面)
	7	明黄褐色土	しまりやや強　粘性やや強
	8	明黄褐色土	7に似るが　色調やや暗　しまりやや弱　粘性やや強

遺構名	層No	ベース土壌	層位説明
4住	9	暗黄褐色土	しまり弱　粘性強
	10	暗黄褐色土	9に似るが　色調やや明　しまり弱　粘性やや強
	11	暗黄褐色土	9に似るが　色調やや暗　しまり弱　粘性強
5住	1	黄褐色土	しまりやや強　粘性弱
	2	暗黄褐色土+黒褐色土	しまり強　粘性やや強
	3	暗黄褐色土	しまり強　粘性強
	4	暗黄褐色土	しまりやや強　粘性やや弱
	5	暗黄褐色土+茶褐色土	しまり弱　粘性やや強
	6	暗黄褐色土+茶褐色土	5に似るが　色調やや暗　しまりやや強　粘性やや強
	7	暗黄褐色土+黒褐色土	しまり強　粘性やや強　カクラン
	8	暗黄褐色土+黒褐色土	7に似るが　色調暗　しまりやや弱　粘性弱
	9	暗茶褐色土+明黄褐色土	しまりやや強　粘性弱
	10	黄褐色土	しまり強　粘性やや強
6住	1	暗黄褐色土+黒褐色土	しまり強　粘性やや弱
	2	明黄茶褐色土	しまり強　粘性やや強
	3	明黄褐色土+黒褐色土	しまり強　粘性やや弱
	4	明黄茶褐色土	2に似るが　色調やや暗　しまり弱　粘性やや弱
	5	明黄褐色土+黒褐色土	3に似るが　色調やや明　しまりやや弱　粘性微弱
8住	1	暗黄褐色土	しまり強　粘性やや弱
	2	暗黄褐色土	しまり強　粘性弱
	3	暗黄褐色土	2に似るが　色調やや暗　しまり強　粘性やや強
	4	暗灰黄褐色	しまり強　粘性やや弱
	5	暗黄褐色土	しまりやや強　粘性やや強
	6	明黄褐色土	しまりやや強　粘性弱
	7	暗黄褐色土	しまり弱　粘性弱
	8	暗黄褐色土	7に似るが　色調やや暗　しまりやや強　粘性弱
	9	暗黄褐色土	しまり強　粘性強
7住	10	明黄褐色土	しまり強　粘性やや弱
	11	明黄褐色土	10に似るが　色調やや明　しまり強　粘性やや弱
	12	灰黄褐色土	しまり強　粘性弱
	13	暗黄褐色土	しまり弱　粘性やや弱
	14	暗黄褐色土	しまり強　粘性やや強
	15	明黄褐色土	暗褐色土が混じる　しまり弱　粘性弱
	16	暗黄褐色土	しまり強　粘性やや弱
9住	17	明黄褐色土	しまり強　粘性弱　きめやや細かい
	18	暗黄褐色土	しまりやや弱　粘性強

第5章　成果と課題

第1節　坂井遺跡の調査について

志村滝蔵氏らのおこなった初期の坂井遺跡調査以降、およそ40年ぶりに坂井遺跡の縄文時代中期の竪穴住居の本調査が実施された。現道の下であることから、保存状況が不良であることが想定されたが、削平は否めないものの比較的良好であったといえる。これは坂井遺跡が耕作による掘削がされている部分はあるものの、考古学的な知見を得ることのできる状況であることを示している。

また、これまで坂井遺跡は縄文時代と考えられてきたが、今回の調査では平安時代の竪穴住居跡（7住）を確認した。過去の調査では平安時代の遺構は確認されてこなかったため空白時期であったが、それを埋める資料を手に入れたといえる。

第2節　坂井・坂井南遺跡内の中・近世概観

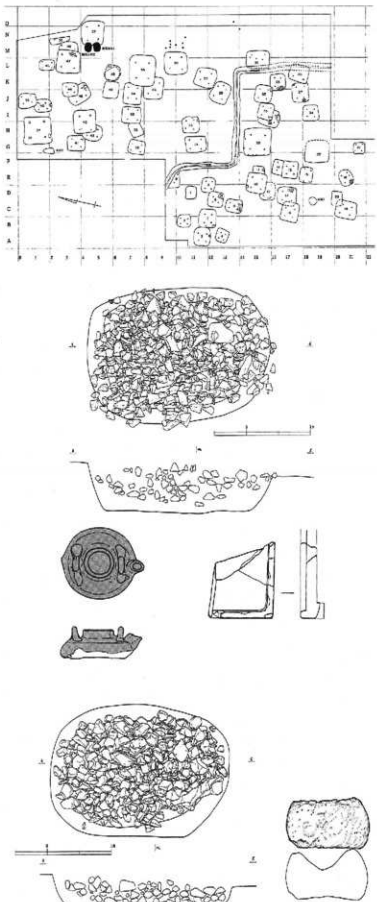
これまで坂井遺跡は縄文時代の集落跡という位置付けがなされ、他時期、特に中・近世についての検討がおこなわれてきたとはいえない。

今回の調査区に隣接して土塁状の高まりがあることから、その様相を報告するとともに、坂井地内の中・近世の様子を概観し、中・近世の研究の課題としたい。

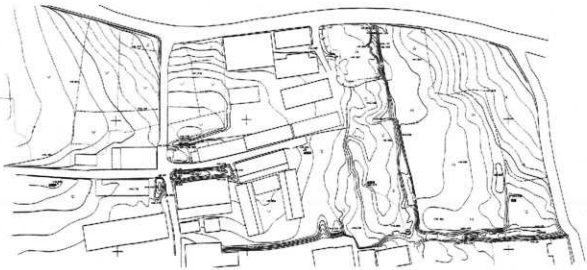
1）坂井地内の中・近世の遺構・遺物分布

坂井地内の中・近世の発掘調査事例は多くはない。

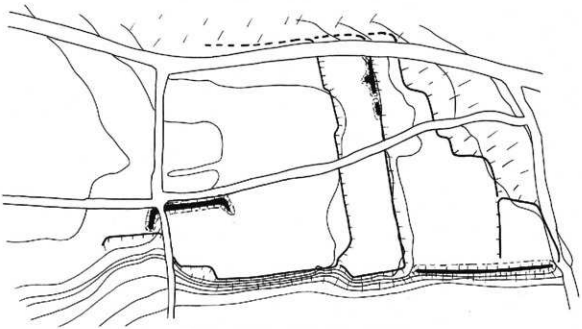
現在の坂井集落の南側に広がる坂井南遺跡では2基の集石土壙が調査されている（『坂井南』1984山下孝司）。1号集石土壙では大窯Ⅱ期の水滴と硯片が出土し、底面からやや浮いた状態で焼土が確認されている。骨・炭化物などは確認されていないようである。2号集石土壙では水輪が出土している。いずれも集石墓として捉えられている。水滴・硯などの保有者は限定されると考えられるので、在地の土豪層以上と関連する施設と思われる。周辺の調査地内で当該期の遺構は確認されておらず、被葬者が現坂井集落ととのように関連するかは即断できない。集石土壙から若干離れて2基の掘立柱建物跡が確認されている。時期不明と報告されているが、周辺の古墳時代前期の竪穴住居跡群との主軸方位と一致しないことや平安時代の遺構・遺物が確認されていないことなどから、中・近世以降の遺構と捉えることが妥当と考えられる。いずれも2間×3間以上の建物跡となる。現坂井集落とは離れており、墓域との関連性や村落移動を考慮すべきであろう（第54図）。



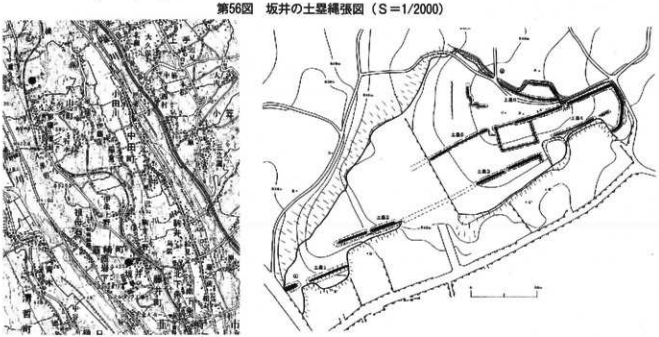
第54図　坂井南遺跡の中世遺構と遺物



第55図　坂井の土塁測量図（S＝1/2000）



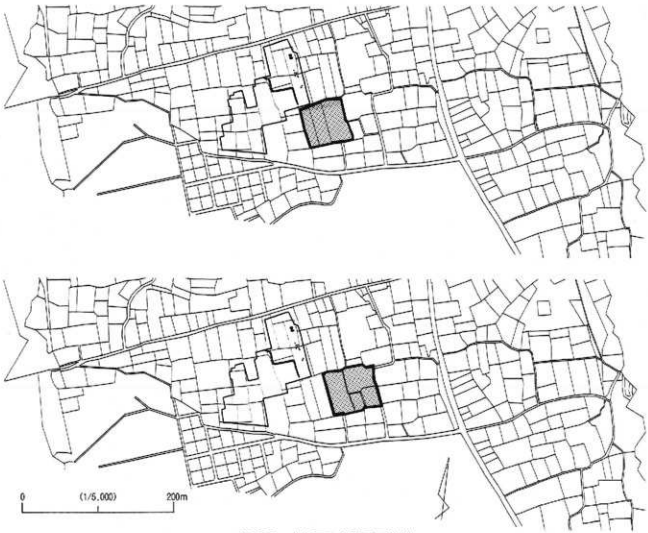
第56図　坂井の土塁縄張図（S＝1/2000）



第57図　長坂氏宅地跡位置図・縄張図

第58図　坂井の小字名と小字境界

屋敷地群1
屋敷地群2
屋敷地群3
屋敷地群4
屋敷地群5
屋敷地群6
屋敷地群7
屋敷地群8
屋敷地群9
屋敷地群10
屋敷地群11
屋敷地群12
屋敷地群13
屋敷地群14
屋敷地群15
屋敷地群16
屋敷地群17
屋敷地群18
屋敷地群19
屋敷地群20
屋敷地群21
屋敷地群22
屋敷地群23
屋敷地群24
屋敷地群25
屋敷地群26
屋敷地群27
屋敷地群28
屋敷地群29
屋敷地群30
屋敷地群31
屋敷地群32
屋敷地群33
屋敷地群34
屋敷地群35
屋敷地群36
屋敷地群37
屋敷地群38
屋敷地群39
屋敷地群40
屋敷地群41



第60図　字大原の方形区画地割

発掘調査は実施していないが、現坂井集落の北側に土塁が存在する。現在の宅地の北側背後にあたり、東西70m、南北80mのT字状のものと、東西30m、南北10mのL字状のものである。この他、土塁は見られないが、高低差によって区画が認識できる（第55・56図）。

類似した遺構として、穴山町の長坂氏宅地跡を挙げることができる。長坂氏宅地跡は『甲斐国志』の中で「東西二町南北一町許」とあり、遺構の現況は第57図のとおりで、東西方向の大型の土塁で仕切られた内部を南北の土塁で複数の空間で構成している。沢が入り込み天然の要害とみることができる。

坂井の土塁と穴山の土塁を関連付ける推察が室伏徹によって指摘されている。新府城の外郭としての範囲を示すというものである。坂井に「下木戸」地名があり、穴山の土塁が「上木戸」と捉えることができることがその根拠である。武田勝頼は新しい府中として韮崎の地を選び、七里岩上へ城を築いている。城のみでなく、躑躅ヶ崎館にあった城下町機能をも移転しようとしたことは疑いようもなく、その城下町の範囲を想定している点で魅力的な見解である。ただし、坂井に「下木戸」という地名は伝承も含めて確認できない。坂井の土塁についても当時は未確認だったようである。長坂氏宅地跡と平面形態的に類似するとはいえ、その高さや郭の複雑さは格段の差を認めざるをえない。土塁の形成時期の把握をもってして再検討の必要があり、現況遺構の類似のみで同時期に機能したと捉えることは尚早であろう。

2）地籍図の検討

圃場整備などをはじめとする事業により広範囲にわたる土地改変がなされているが、明治時代の『土地方典』の作成及び行政機関で保管している公図の原典によって、土地改変がおこなわれる以前の地割を知ることができる。

地割成立の遡源については、個々の地域によって異なるものの、江戸時代中期以前にまで遡る場合が多いことも確かなことである。

ここでは、地割から読み取ることのできる坂井村地内の様相を検討しておく。あくまでも、地籍図の作成された明治時代のものを反映したものであることを最初にお断りしておく。

第58・59図は昭和47年に校正された地籍図である。現在の東京エレクトロン等の建設以前の地割りが表現されており、現存する地籍図では最も古い段階のものである。

屋敷地の分布と地番の付し方を検討していくと、大き

く三つに区分が可能である。延命寺を中心に東西に翼を広げるように展開する屋敷地群1、天王社から西に直線的に展開する屋敷地群2、前述の屋敷地群と一括して捉えることもできるがやや離れている屋敷地群3である。各屋敷地群の特徴をみておく。

屋敷地群1は七里岩の台上と藤井平を結ぶ道の北側に沿っている。延命寺を境にして東側はブロック状にまとまり、西側は短冊形地割が直線的にならんでおり、趣を異にしている。小字名は字林である。土塁が確認されたのは本屋敷地群の西側部分である。

屋敷地群2は屋敷地群1の南側の沢地形を挟んで対岸に位置する。小字名は村ノ前である。やはり短冊形地割の存在を見ることができる。

屋敷地群3は現在の県道沿いにブロック状にまとまっている。屋敷地群3の東、七里岩の断崖沿いに墓地がある。小字名は丸山である。

以上のように、地籍図を検討する限り、現在の県道を中心とした村落形態ではなく、七里岩を東西に走る道を意識した形態であることを指摘できる。これは、坂井村住人の水田耕作地が藤井平にあり、村の土地利用が南北ではなく、東西方向に伸びていることに起因しているのであろう。南北の流通を結ぶメインルートは原路（概ね現県道）なのだが、村のメインルートは東西に走るものであり、一致していない。

このことは原路の成立等や本地籍図成立以前の土地利用のあり方を探る上で念頭に入れるべき事柄である。

次に、字大原に注目しておきたい地割がある。ほぼ正方形の区画があり、それをとりまく区画も相似形をしている（第60図）。大きさがにはいわゆる中世屋敷跡をイメージするものであり、二つの区画が浮かび上がる。中世の土坑が検出された場所は本地の北に位置し、隣接している。あくまでも地籍図上での検討であり、地下に遺構があると断定できるわけではないので、屋敷跡を示す地割りの可能性の指摘にとどめておくが、遺物の表面採集や伝承の存在等のない地域においてこのような検討は文化財保護活動の一環としても実施しなければならない。古いが見直されるべき手法である。

3）文献の検討

『甲斐国志』・『甲斐国社記・寺記』の中から坂井集落に関する記載を抜粋しておく。

●『甲斐国志』（古跡部）

弾正屋敷　坂井村　扇ノ守ニ呼ベルノミ強域詳ナラズ土中ニ古瓦ナドノ出ルコトアリト云ヘ時代ニ弾正ナル者ハ詳ナラズ高坂源五郎ノコトヲ列祖成績ニハ弾正ト記セリ以前ヨリ有リタル居館ナリヤ否ヤ

●『甲斐国志』（村里部）

坂井村　竹ノ内

一高三百五十石一斗二升二合　戸四十二

口　百七十　男八十　女九十　馬八

駒井村・下条村ノ際ニ在リ後ニ片山ノ上竹内ト云処ニ遷リ今ハ五六戸残レリ上坂井・下坂井ト呼ブ

旧来、本村は藤井平にあり、そこから七里岩台地の竹内と呼ばれる場所へ移ったといわれていることが記されている。「竹内」地名は竹林の存する場所や「館」があった場所を示すことが多い。「館」がなまり「竹」となったのであれば、古跡部にのる「弾正屋敷」との関連が考えられる。ただし、『国志』でも指摘されているように弾正は高坂弾正と考えられるもののその確たる証拠は今のところ確認されていない。また、「弾正屋敷」と呼ばれる地名も現在伝承されていない。

坂井地内には現在延命寺と天王社の2つの寺社がある。

●『甲斐国社記・寺記』

巨摩郡坂井村　延命寺

覚

一、本　堂　行間七間半　梁間六間半
一、開山堂　行間三間半　梁間弐間
一、庫　裡　行間八間　梁間四間半
一、土　蔵　行間二間　梁間弐間半
一、土　蔵　行間弐間半　梁間弐間
一、御除地　寺中境内　六百八拾坪
一、同　古寺中　三畝拾四歩
一、開山玄尊和尚　貞享元甲子年開闢より当暦迄百九十七年ニ罷成候

右之通相違無御座候以上

慶応四戊辰年七月

山梨郡積翠寺村興国寺末

巨摩郡坂井村

延命寺　印

寺社御役所

●『甲斐国志』

牛頭天王　坂井村　社地三百廿四坪除地ナリ駒井村神主葉帯ス慶長黒印帳ニ三斗六升境村諏訪神領トアリ今亡セリ

現在、社はなく、ゲートボール場として使用されている。弥生時代前期から中期にかけての条痕文土器が確認されている。

「長生山延命寺　坂井村　同宗下穐翠寺村興国寺除地二段二畝廿歩本尊千手観音」

『峡北神社誌』永禄八年

引用・主要参考文献

天野洋司他，1991，中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．土壌養積リンの再生循環利用技術の開発．農林水産省農林水産技術会議事務局編

伊東隆夫，1995－1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ－Ⅴ．木材研究・資料31－35，京都大学木質科学研究所

川崎弘他，1991，九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．

土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発．農林水産省農林水産技術会議事務局編
島地謙他，1982．図説木材組織．地球社
土壌環境分析法編集委員会編，1997．土壌環境分析法．博友社
農林省農林水産技術会議事務局監修，1967．新版標準土色帖
林昭三，1991．日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所
ペドロジスト懇談会編，1984．土壌調査ハンドブック．博友社
Bowen,H.J.M.,1979,EnvironmentalCemistry of Elements.［浅見輝男他（訳），1983．環境無機化学．元素の循環と生化学，博友社］
Bolt,G.H.&Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY.［岩田進午他（訳），1980．土壌の化学．学会出版センター］
＊坂井遺跡関連年表に掲載済みのものは省略してある。

2号住居跡　埋甕断ち割り状況

2号住居跡　埋甕

2号住居跡　埋甕確認状況

2号住居跡　埋甕　蓋礫除去状況

2号住居跡　埋甕内土層堆積状況

2号住居跡　埋甕内硬化土壌確認状況

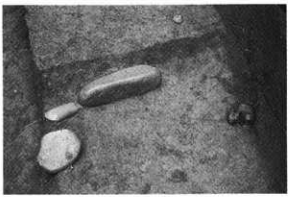
図版2

1号竪穴住居跡　1号土坑遺物出土状況

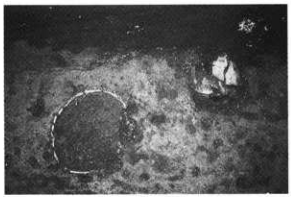
2号竪穴住居跡　遺物出土状況

8号住居跡遺物出土状況

8号住居跡　炉内遺物出土状況



8号住居跡　壁際遺物出土状況



1・2号埋甕（埋甕A・B）確認状況

1号埋甕（埋甕A）断ち割り状況

2号埋甕（埋甕B）断ち割り状況

土器集中部遺物出土状況

土器集中部礫出土状況

1号住居跡出土土器1

1号住居跡1号土坑出土土器

8号住居跡出土土器1

1号埋甕（埋甕A）

2号埋甕（埋甕B）

1号住居跡出土土器2

図版4

土器集中部出土土器1

土器集中部出土土器2

土器集中部出土土器3

土器集中部出土土器4

坂井南・2号住居跡出土遺物

坂井南・3号住居跡出土遺物

調査風景1

調査風景

報告書抄録

ふりがな	さかいいせき（むらのまえだいにちてん）・さかいみなみいせき（だいさんちてん）
書名	坂井遺跡（村ノ前第２地点）・坂井南遺跡（第３地点）
副書名	下水道敷設に伴う緊急発掘調査報告書
編著者名	関間俊明、パリノ・サーヴェイ㈱
編集機関	韮崎市遺跡調査会
発行機関	韮崎市遺跡調査会
住所	山梨県韮崎市水神1-3-1
発行年月日	平成18年３月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
坂井遺跡（さかい）	山梨県韮崎市藤井町南下条地内	19207	S－35	35°43′44″	138°26′04″	H16. 8～9	600㎡	下水道敷設
坂井南遺跡（さかいみなみ）			S－41	35°43′32″	138°26′09″	H17. 2～3		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
坂井遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居、畑畝	土器、石器、土偶	８住で土偶４点出土 小規模廃棄場
		古墳時代	竪穴住居	土器、石器	
		平安時代	竪穴住居	土器	
坂井南遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居、 方形周溝墓	土器、石器	

坂井遺跡（村ノ前第２地点）
坂井南遺跡（第３地点）
下水道敷設に伴う緊急発掘調査報告書

平成18年３月30日　発行

発　行　韮崎市教育委員会・韮崎市遺跡調査会
〒407－8501
山梨県韮崎市水神1-3-1
TEL　0551-22-1111（代表）

印　刷　ほおずき書籍株式会社
長野市柳原2133-5